SYLLABUS

2023
（令和5年度）
32期生

藤華医療技術専門学校
看　護　学　科

SYLLABUS　2023（令和5年度）32期生　藤華医療技術専門学校　看護学科

Ⅰ．看護学科の教育課程の考え方

＜基本理念＞

本学科における看護師養成の基本理念は、医療の基盤となる知識・技術および態度を学ばせ、豊かな教養と礼儀・感謝の精神を身につけ、広く地域や社会に貢献し、生涯にわたり、自己を研鑽できる人材を育成することにある。併せて本学園経営の姉妹校との連携を図り、保健・医療・福祉との関連性を深められるようにする。

＜教育目的＞

看護師に必要な知識・技術及び態度を習得させると共に豊かな人間性を養い、保健・医療・福祉の発展に貢献できる看護師を育成する。

＜教育目標＞

1．人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。
2．対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
3．看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
4．科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を行うための基礎的能力を養う。
5．健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復にかかわる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
6．保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。
7．専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る基礎的能力を養う。

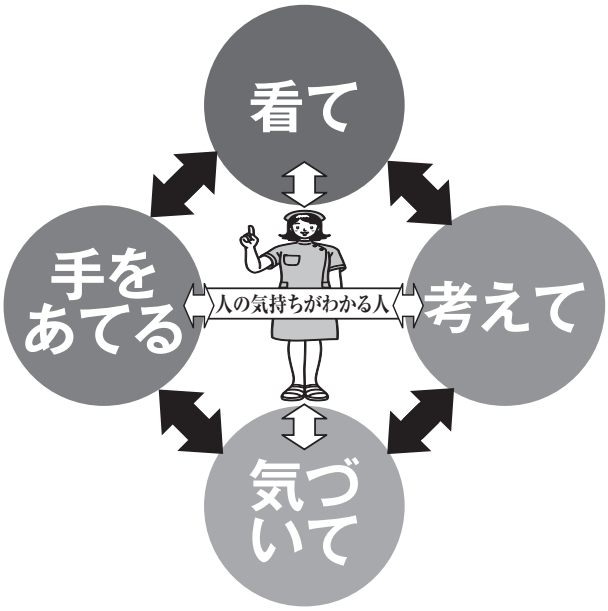
＜期待される卒業生像＞

学園の教育方針である「形から心を養う実学教育」を基盤に、医療の専門職業人として人間を尊重し、敬愛し、ケアできる知識・技術を身に付ける教育を実践する。

まず、校是である「礼儀」「感謝」「奉仕」をもとに、看護学科では「人の気持ちがわかる人」の育成を目指す。

更に、看護するうえで生じた「なぜ？」を大切にし、その意味を考え、気づき、手をあてることのできる看護師の育成を目指す。

「看て、考えて、気づいて、手をあてる」事のできる看護師



「手をあてる」とは
川島みどり先生…「TE・ARTE」
からだに触れる、心に触れる、人格に触れる、
コミュニケーション、まなざし、
などなど「手の技」を極める。

＜アドミッション・ポリシー＞

1）看護師になりたいという強い意志を持った人
2）人に関心を持ち、人とのかかわりを大切にする人
3）感じる心、相手を思いやる心を持つ、感性豊かな人
4）素直な心を持ち、自己の成長のために、前向きに諦めず努力する人
5）健康や生活に関心を持ち、自己管理ができる人

＜ディプロマポリシー＞

1．人間が身体的・精神的・社会的に統合された存在であることを理解する。
2．対象の価値観を尊重したコミュニケーションを図り、信頼関係が構築できる。
3．看護職としての倫理観をもち、法令を遵守し、行動できる。
4．科学的根拠に基づいて現状を理解し、必要な看護を考え実践できる。
5．対象の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意しながら看護を実践できる。
6．保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有しながら看護を実践できる。
7．看護実践における自らの課題の取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解できる。
8．自己研鑽し、学び続ける姿勢を持つことができる。

＜カリキュラムポリシー＞

看護学は、さまざまな生活環境で暮らす人々を理解し、あらゆる健康段階にある個人または集団の健康上の問題を明確にし、より良い援助の方向を追及する理論と実践の学問である。看護は、健康のあらゆるレベルにおいて個人が健康的に正常な日常生活を送れるように援助することである。その援助過程では、保健・医療・福祉チームが共同して、対象のそれまでの生活リズムにまで整えることを目指す相互作用の過程をとる。本校のカリキュラムは、豊かな人間性の育成と看護実践に関する能力の開発に重点を置き、基礎的能力から専門的能力の養成までを段階別に３つの分野（基礎分野・専門基礎分野・専門分野）および臨地実習に分類し、積み上げ式に学べるように編成したカリキュラムとなっている。

まず、看護学を学ぶ上での土台となる基礎分野においては科学的思考の基盤作りのための論理学・物理学・統計学を設定した。人間と生活・社会の理解を深めるために、心理学・発達論・コミュニケーション論・行動科学・社会学・家族論・教育学を設定した。また、自己の心と体の健康づくりを目指しリラクゼーションを取り入れた。更に、国際化する社会に対応するため、英語を学ぶ。情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱでは、情報通信技術（ＩＣＴ）を活用するための基礎的能力を養う。

専門基礎分野では看護の対象である人間を総合的かつ個別的に理解し、健康と疾病に関する観察力や判断力を育成するため、人体の構造と機能を学ぶ科目として生化学、解剖生理学、解剖生理学演習を設定した。解剖生理学演習では、看護学の視点から人体を系統立てて理解する。疾病の成り立ちと回復の促進を学ぶ科目として、微生物学、病理学、薬理学、栄養学、臨床病態学演習Ⅰ、臨床病態学演習Ⅱを設定した。臨床病態学演習Ⅰでは、検査データや画像のアセスメントを学び、対象者を総合的に判断し看護に活かす能力を養う。臨床病態学演習Ⅱでは、解剖生理学と病理学の知識をつなげ、看護に活用する能力を養う。また、人々が生涯を通じて健康や障害の程度に応じた社会資源の活用ができるよう、健康支援と社会保障制度、生活者の理解を深める科目として保健医療論、公衆衛生学、保健行政論、関係法規、社会福祉Ⅰ、社会福祉Ⅱを設けた。

専門分野は基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、臨地実習で構成する。全ての看護学の基礎となる基礎看護学では、あらゆる看護場面に共通する概念・理論・基礎的知識や技術を学ぶ。基礎看護学ではシミュレーション等を活用した演習を行い、主体的な学習を促す。看護師として倫理的に判断し、行動するための基礎的能力を養う。地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。これら、基礎看護学と地域・在宅看護論を早期から学び、人間の発達段階と人間のライフステージや対象の特性に応じた看護である成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学を積み上げて学ぶ。成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の問題を明らかにし、その多様なニーズや特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する内容とした。

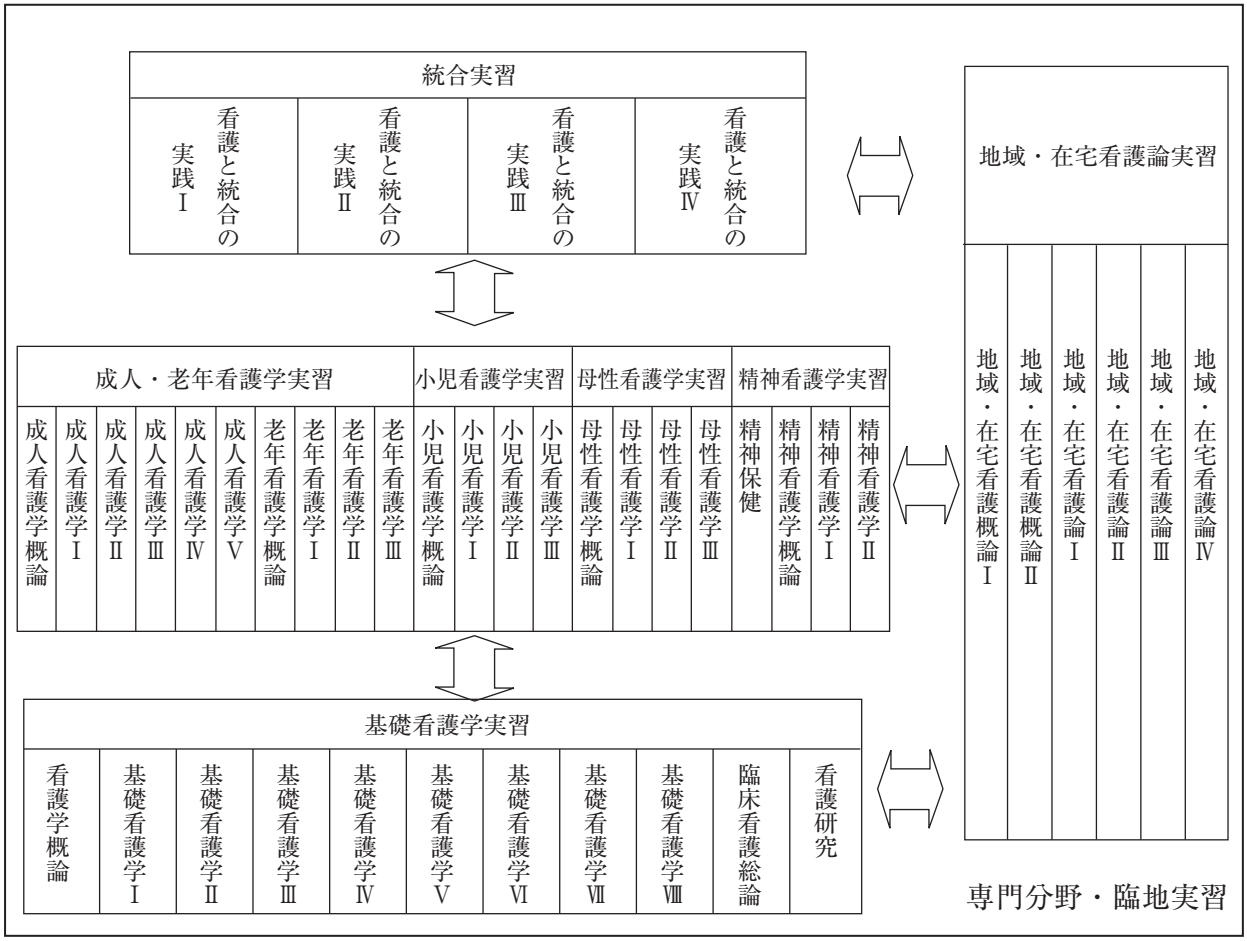
更に、看護の統合と実践では、学んだ知識をより臨床実践に近い形で学習する。既習の知識・技術を統合し対象の状態に応じた看護を実践する能力および看護を総合的に評価する能力を養うための科目として、臨床看護技術Ⅰ、臨床看護技術Ⅱ、看護管理、医療安全、国際社会と看護、災害看護、救急看護、臨床判断能力の基礎を学ぶ。

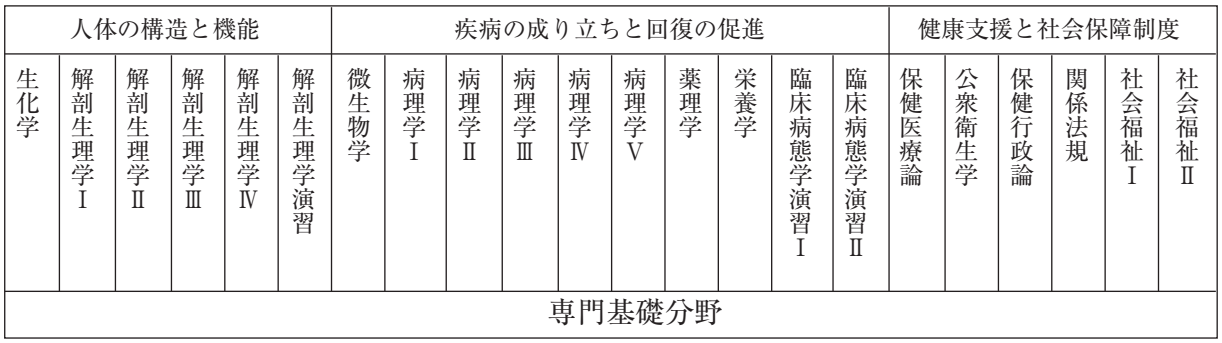
Ⅱ．教育課程

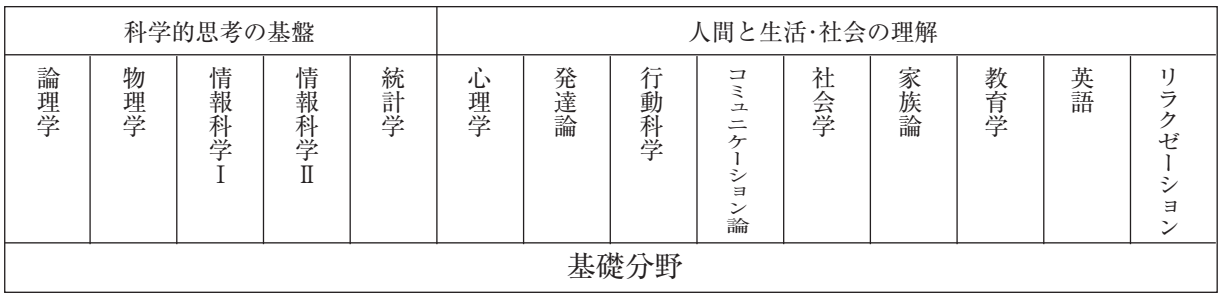
分野	教育内容	指定規則	学則		教科
		単位	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	14	1	30	論理学
			1	15	物理学
			1	30	情報科学Ⅰ
			1	15	情報科学Ⅱ
			1	15	統計学
	人間と生活・社会の理解		1	15	心理学
			1	15	発達論
			1	15	行動科学
			1	30	コミュニケーション論
			1	30	社会学
			1	15	家族論
			1	30	教育学
			1	30	英語
			1	15	リラクゼーション
	小　計	14	14	300	
専門基礎分野	人体の構造と機能	6	1	30	生化学
			1	30	解剖生理学Ⅰ
			1	30	解剖生理学Ⅱ
			1	30	解剖生理学Ⅲ
			1	30	解剖生理学Ⅳ
			1	30	解剖生理学演習
	疾病の成り立ちと回復の促進	10	1	30	微生物学
			1	30	病理学Ⅰ
			1	30	病理学Ⅱ
			1	30	病理学Ⅲ
			1	30	病理学Ⅳ
			1	30	病理学Ⅴ
			1	30	薬理学
			1	30	栄養学
			1	15	臨床病態学演習Ⅰ
			1	30	臨床病態学演習Ⅱ
	健康支援と社会保障制度	6	1	15	保健医療論
			1	30	公衆衛生学
			1	15	保健行政論
			1	15	関係法規
			1	30	社会福祉Ⅰ
			1	15	社会福祉Ⅱ
	小　計	22	22	585	
専門分野	基礎看護学	11	1	30	看護学概論
			1	30	基礎看護学Ⅰ
			1	30	基礎看護学Ⅱ
			1	30	基礎看護学Ⅲ
			1	30	基礎看護学Ⅳ
			1	30	基礎看護学Ⅴ
			1	30	基礎看護学Ⅵ
			1	30	基礎看護学Ⅶ
			1	15	基礎看護学Ⅷ
			1	30	臨床看護総論
			1	30	看護研究

分野	教育内容	指定規則	学則		教科
		単位	単位	時間	
専門分野	地域・在宅看護論	6	1	15	地域・在宅看護概論Ⅰ
			1	30	地域・在宅看護概論Ⅱ
			1	15	地域・在宅看護論Ⅰ
			1	15	地域・在宅看護論Ⅱ
			1	30	地域・在宅看護論Ⅲ
			1	15	地域・在宅看護論Ⅳ
	成人看護学	6	1	30	成人看護学概論
			1	30	成人看護学Ⅰ
			1	30	成人看護学Ⅱ
			1	30	成人看護学Ⅲ
			1	30	成人看護学Ⅳ
			1	30	成人看護学Ⅴ
	老年看護学	4	1	15	老年看護学概論
			1	30	老年看護学Ⅰ
			1	30	老年看護学Ⅱ
			1	15	老年看護学Ⅲ
	小児看護学	4	1	30	小児看護学概論
			1	15	小児看護学Ⅰ
			1	30	小児看護学Ⅱ
			1	30	小児看護学Ⅲ
	母性看護学	4	1	15	母性看護学概論
			1	30	母性看護学Ⅰ
			1	30	母性看護学Ⅱ
			1	30	母性看護学Ⅲ
	精神看護学	4	1	15	精神保健
			1	30	精神看護学概論
			1	30	精神看護学Ⅰ
			1	30	精神看護学Ⅱ
	看護の統合と実践	4	1	30	看護の統合と実践Ⅰ
			1	30	看護の統合と実践Ⅱ
			1	15	看護の統合と実践Ⅲ
			1	30	看護の統合と実践Ⅳ
	小　計	43	43	1125	
臨地実習	基礎看護学実習	3	1	45	基礎看護実習Ⅰ
			2	90	基礎看護実習Ⅱ
	地域・在宅看護論実習	2	2	90	地域・在宅看護論実習
	成人・老年看護学実習	10	2	90	成人・老年看護学実習Ⅰ
			2	90	成人・老年看護学実習Ⅱ
			3	135	成人・老年看護学実習Ⅲ
			3	135	成人・老年看護学実習Ⅳ
	小児看護学実習	2	2	90	小児看護学実習
	母性看護学実習	2	2	60	母性看護学実習
	精神看護学実習	2	2	90	精神看護学実習
	統合実習	2	2	90	統合実習
	小　計	23	23	1005	
		102	102	3015	

Ⅲ．看護教育課程の構造図







Ⅳ．教育目標と学年別到達目標

教育目標	卒業時の到達目標	３年次	２年次	１年次
１．人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。	１）人間が身体的・精神的・社会的に統合された存在であることを理解できる。	①実習を通して、対象を身体的、精神的、社会的側面から総合的にとらえる。 ②人に対する尊厳の気持ちを深める。	①人間は成長・発達している存在であることを理解し、生涯各期の成長・発達の特徴がわかる。 ②実習を通して看護の対象の身体的・精神的・社会的特徴を捉える。 ③人間は信念・価値観など固有の自己概念を持つ存在であることを理解する。	①看護の対象は生活者としての人間であることを理解する。 ②人間の基本的ニードを理解する。 ③看護の対象の身体的・精神的・社会的特徴をとらえる必要性がわかる。 ④看護の主要概念について理解する。
２．対象を中心とした看護を提供するために、看護師としての人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。	１）対象の価値観を尊重したコミュニケーションを図り、信頼関係が構築できる。	①あらゆる場面で出会うすべての人と円滑にコミュニケーションが図れる。 ②適切に報告・連絡・相談を行い、情報共有する。 ③対象の尊厳を守り、その人の価値観を尊重した看護を展開する。	①他者との関わりの中で相手の感情を感じ取り、コミュニケーション技術を活用し円滑なコミュニケーションが図れる。 ②適切な報告・連絡・相談をする。	①人に興味関心を持ち、周囲の人の気持ちを考え行動する。 ②人間関係における効果的なコミュニケーションの方法や技術を理解し、日常生活で活かす。 ③報告・連絡・相談の必要性がわかる。
３．看護師としての責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。	１）看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守し、行動できる。	①看護職としての使命感、責任感を持ち行動する。 ②実習で危険を予測し、医療安全のために必要な行動する。 ③看護職として倫理綱領に基づいた行動の必要性を理解し、適切に行動する。	①対象のプライバシーに留意し、個人情報を理解し、行動する。 ②規則を遵守する意義を理解し、人間関係に及ぼす効果や影響を考えて行動する。 ③実習で医療安全に関する規則等に従って行動する。 ④看護職として倫理綱領に基づいた行動の必要性を理解し行動する。	①対象のプライバシーに留意し、個人情報保護の必要性が理解できる。 ②規則を理解し、必要な行動をとる。 ③アクシデント、インシデントについてわかる。 ④実習で対象の周囲にある危険に気づく。 ⑤看護職として倫理綱領に基づいた行動の必要性を理解する。
４．科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。	１）科学的根拠に基づいて現状を理解し、必要な看護を考え実践できる。	①対象の身体面、精神面、社会面をアセスメントし、健康上の問題を明らかにし、個別性のある看護を実践する。 ②看護援助を改善するために文献等を活用し深める。 ③看護実践を評価し、自己の課題がわかる。	①主要な疾患の病態生理・治療・看護について理解する。 ②フィジカルアセスメントをする。 ③クリティカルシンキングを身につける。 ④看護実践は、科学的根拠を踏まえ、対象の状況を考えながら行う。 ⑤実践した看護を振り返り、意味づけをする。	①人体の構造と機能について理解する。 ②事実を正確にとらえる。 ③看護に必要な気づきを大切にし、客観的に考えようとする。 ④技術の根拠の必要性がわかる。 ⑤日常生活援助を原理・原則に基づき、安全・安楽に基づいて行う。 ⑥実践した看護を通して、援助の意味を考える。（リフレクション）
５．健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。	１）対象の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意しながら看護を実践できる。	①対象の健康段階、個別性を考慮した看護を実践する。 ②対象に必要な資源を理解し、健康の保持・増進に向けた生活に関する支援を行う。 ③対象のニーズの充足、自立と回復の程度、満足度から、実施した援助を評価し、計画の修正を行う。 ④統合実習では、複数の患者を受け持ち、優先度を考えながら看護を実践する。	①健康段階に応じた看護がわかる。 ②健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を理解する。 ③対象の意志を尊重し、相手のペースに合わせて援助する。	①健康の概念を理解する。 ②安全・安楽・自立／自律の概念が理解する。 ③健康に関する課題を解決するためには疾病構造の変遷・疾病予防対策・医療の動向を理解する。 ④対象の健康状態や欲求をふまえた日常生活援助の必要性がわかる。
６．保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。	１）保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有しながら看護を実践できる。	①実習において、保健・医療・福祉チームの一員であることを自覚し責任ある行動をする。 ②統合実習を通して看護チーム内での役割を体験し、チームメンバーと協力しながら他職種と連携し、看護を実践する。 ③多様な場における看護の機能と役割について理解する。 ④保健・医療・福祉制度におけるマネジメントの実際を理解する。	①グループ活動では、チームの一員として役割を遂行する。 ②実習では、看護チームの一員として責任ある行動をとる。 ③対象をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する。 ④日本や諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。	①グループ活動において自分の考えを伝え、他者の意見を受け入れる。 ②クラスの一員としての責任と協調の必要性を理解できる。 ③保健・医療・福祉チームにおける看護師および他職種の機能・役割がわかる。 ④社会情勢に関心を持ち、現代社会の状況を知り、多様な生活の場について知る。
７．専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る基礎的能力を養う。	１）看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解できる。 ２）自己研鑽し、学び続ける姿勢を持つことができる。	①自己の看護を振り返り看護とは何かを考え、看護観を深め、述べられる。 ②自分の将来のキャリアデザインを描く。 ③看護に誇りを持ち、自己研鑽し、学び続ける姿勢を持つことの必要性を理解する。	①実践した看護の根拠を明確にする。また、対象の個別性を考慮し、よりよい看護を追及する。 ②目指す看護師像を具体的に描きながら進路について考える。 ③看護に関する文献を読み、実習を通して、自己の看護に関する考えをケーススタディで明らかにする。	①目指す看護師像を描き、自ら考え行動し、主体的に学び追及する姿勢をもつ。 ②看護に興味・関心を持ち、学ぶことで、看護の喜びを感じる。

基　礎　分　野

基礎分野の考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野」の基礎となる分野であり、「科学的思考の基盤」「人間等生活・社会の理解」の2つの内容で構成する。

基礎分野を構成する各教科目を学習する目的は、科学的思考力を身につけること及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動がとれることにある。

科学的思考の基盤として論理学、物理学、情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、統計学を学ぶ。物理学は、看護技術の根拠となる基礎的な内容を学ぶ。情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱでは、情報通信技術（ＩＣＴ）を活用するための基礎的能力を養う。

人間と生活、社会の理解として心理学、発達論、行動科学、コミュニケーション論、社会学、家族論、教育学、英語、リラクゼーションを学ぶ。特にコミュニケーション論では、人間関係の基礎としてのコミュニケーション能力を高める内容を学ぶ。また、国際化、情報化への対応のため、英語では基礎的な英語のコミュニケーション、臨床に役立つ医学英語を学ぶ。リラクゼーションを通して心と体の健康づくりを目指す。

＜基礎分野の構成＞

科学的思考の基盤
［５単位：105時間］
- 論理学
- 物理学
- 情報科学Ⅰ
- 情報科学Ⅱ
- 統計学

人間と生活・社会の理解
［９単位：195時間］
- 心理学
- 発達論
- 行動科学
- コミュニケーション論
- 社会学
- 家族論
- 教育学
- 英語
- リラクゼーション

	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
基礎分野	論　理　学	1（30）	1年前期	講義
担当教員	神崎英紀			

1．授業概要

看護を展開していくため、原因と結果・現象とその解釈について論理的に考え正確に伝えるための基盤となる能力を養う。

2．到達目標

1）基本的な文章の書き方がわかる。
2）事実･状況を文章および言葉で的確に伝えることができる。
3）論理的な筋道の通った文章が書ける。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）文章の読解
3～5	2）文章を書く力
6～9	3）文章を書く手順 ①動機　②主題　③材料　④構想　⑤叙述　⑥推敲
10～12	4）レポート、小論文の書き方 ①主語、述語の関係　②ワンセンテンス　③句読点 ④文体、用語　⑤段落　⑥文章構成の型　⑦文章展開の型
13～14	5）添削する指導
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布
参考文献
医療･看護に関する文献･論文･新聞記事･コラムなど、必要に応じて関連の書籍を紹介する。

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	物　理　学	1（15）	1年前期	講義
担当教員	島田隆樹			

1．授業概要

医療の現場ではこれまでに見出されている種々な物理現象や法則を機器や手法に有効活用しながら、診察・検査・治療・リハビリなどを行っている。その中で看護に携わる者として知らねばならない（または、知ることで有効な手法となる）、力学などを学ぶ。

それにより看護者は勿論のこと、治療や介護を受ける者にとっても痛みや負担を軽減することができ、色々な治療効果も向上する。此処では医療の現場、特に看護に役立つ様々な機器の動作原理やその活用の仕方を物理学的見地から学ぶ。

2．到達目標

看護の現場に生かすために必要な知識とそれを応用する力を養う。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）力（ベクトル、トルク、てこの原理 ボディメカニクス、比重と浮力
3	2）圧力ベルヌーイの定理、気圧、水圧、血圧 低圧持続吸引、サイフォンの原理）
4	3）電気（アースリーク）
5	4）熱（熱の移動）
6	5）音と振動（ドプラー効果、超音波）
7	6）光と放射線（レンズと眼鏡、紫外線、赤外線、X線、RI）
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

物理学：メヂカルフレンド社

参考文献

Newベッドサイドを科学する　看護に生かす物理学（平田雅子著）：学研理科年表（国立天文台編）：丸善

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	情 報 科 学Ⅰ	1 （30）	1年前期	講義・演習
担当教員	吉岡　孝			

1．授業概要

コンピュータによる情報処理の実際を学ぶことによって、情報リテラシーの育成をはかる。

2．到達目標

情報科学の基礎理論と、コンピュータによる基本的な操作能力を習得する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～5	1）パソコンの基本操作
6～10	2）各種ソフトの使い方 ①文章作成ソフト ②表計算ソフト ③プレゼンテーションとソフト
11～14	3）情報検察の方法
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

看護・医療のための情報科学入門（椎橋　実智男著）：医学芸術社

ヘルスケア情報学入門（辻　和男著）：金原出版

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	情 報 科 学Ⅱ	1 （15）	２年前期	講義・演習
担当教員	佐伯圭一郎			

１．授業概要

保健医療・看護の場でどのように情報が取り扱われているか学ぶ。電子カルテなどの病院情報システムがどのようなものか学習する。また、情報リテラシーの育成をはかる。

２．到達目標

１）保健・医療・看護の場でどのように情報が取り扱われているかわかる。
２）電子カルテなど病院情報システムがどのようなものかわかる。
３）病院や地域におけるＩＣＴ活用について知る。
４）情報を取り扱う上で必要な倫理や権利について学ぶ。

３．授業計画

回数	内　　容
1	1）情報の定義と特徴 情報化社会
2	2）保健医療と情報
3	3）看護と情報
4	4）医療における情報システム
5	5）情報倫理と医療倫理
6	6）患者の権利と情報
7	7）個人情報の保護 コンピューターリテラシーとセキュリティー
8	テスト・まとめ

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　別巻　看護情報学：医学書院

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	統　計　学	1（15）	2年後期	講義・演習
担当教員	小野　宏			

1．授業概要

確率･統計とはどのようなもので、それが日常生活、医療･保健従事者とどのように関わっているかを学び、医学分野におけるデータを図や表に示された時その数字は何を意味するかを読み取る能力を養い、科学的な論理と思考の基本および看護研究を行うための基礎能力を養う。

2．到達目標

確率の基礎および統計処理の仕方、概要について学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）統計学入門
2	2）統計データの種類とまとめ方
3	3）確率と分布
4	4）母集団・標本と推定
5～6	5）各種検定
7	6）保健統計の基礎
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

エビデンスのための看護研究の読み方・進め方 ： 中山書店

系統看護学講座　基礎分野　統計学 ： 医学書院

看護、医療系のための情報科学入門

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	心　理　学	1（15）	1年前期	講義
担当教員	四童子龍子			

1．授業概要

心のしくみについて学び自己や他者の心理を理解することは、社会人としてまた医療従事者として必要なことである。ここでは、人の心理を理解するための基礎的知識を学ぶ。

2．到達目標

心理学一般の根本原理を知ることができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）心理学とは
2	2）感覚と知覚・記憶
3	3）思考・言語・知能、学習
4	4）感情と動機づけ、性格とパーソナリティ
5	5）社会と集団、発達
6	6）心理臨床
7	7）医療・看護と心理
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　基礎　心理学 ： 医学書院

参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	発　達　論	1（15）	1年前期	講義
担当教員	山崎清男			

1．授業概要

人間の身体的・心理的・社会的側面の統合体としてとらえ、発達という観点から理解する。

2．到達目標

発達理論をふまえ、乳幼児期から老年期までの各発達段階における心身の特徴と発達課題について理解できる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）発達とは
2	2）各発達段階の心身の特徴と発達課題 ①乳幼児期
3	②児童期
4	③青年期（思春期）
5～6	④成人期（壮年期、中年期）
7	⑤老年期
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	行 動 科 学	1 （15）	1年前期	講義・演習
担当教員	麻生良太			

1．授業概要

社会学、人類学、教育学等、学際的特質を有する行動科学について、その中心領域である心理学の視座から人間行動の生起、変容のメカニズムを学び、人間理解につなげる。

2．到達目標

1）人間と人間行動について行動心理学･人間性心理学の立場から分析し、基本的理解を図る。
2）集団行動･対人関係について集団力学の研究的成果を拠り所に考察し、基本的理解を図る。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）レヴィン・ワトソン・トールマンの行動理論
2～3	2）人間観・動因・誘因・認知と行動
4～5	3）心的エネルギーの2つの方向
6	4）集団力学の方法、集団規範と集団雰囲気の規定要因とその測定法
7	5）対人関係の基本軸、バランス理論と討論法
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布
参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	コミュニケーション論	1 （30）	1年前期	講義・演習
担当教員	生山留美			

1．授業概要

看護において良好な人間関係を構築するためにコミュニケーション能力は不可欠な要素である。人間観を基本に人間関係の望ましい有り方について理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。

2．到達目標

1）人間関係についての基礎知識を得る。
2）コミュニケーションに関する理解を深めることができる。
3）個人および集団における交流の在り方の理論･方法･技術が理解できる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）人間関係とは何か、人間関係の基本的概念、自己と他者、関与者としての自己
3～4	2）対人関係・行動と社会との関係・家庭・職場・ソーシャルサポートネットワーク
5～7	3）人間関係の本質とケア、援助関係の歴史的変遷および生命へのアプローチ
8～10	4）コミュニケーションの構造・機能とその障害、対人感情と共感言語の機能
11～12	5）カウンセリングの理論・方法・技術
13～14	6）人間関係のスキルトレーニング、感受性訓練、カウンセリング実習・自己変容
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

系統看護学講座　基礎分野　人間関係論 ： 医学書院
看護とカウンセリング（吉田　哲著）　：メディカ出版
カウンセリングの技術（友田不二男著）：誠信書房
カウンセリングの実践（工藤和仁著）　：日本カウンセリングセンター

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	社　会　学	1（30）	1年前期	講義
担当教員	山本　勝			

1．授業概要

人間は社会の中に存在し、人間と社会は強い相互作用をもっている。人と社会のしくみや現在社会の特徴を学び、看護の対象である人の理解につなげたい。

2．到達目標

複雑化する現代社会の構造と機能についての社会的考察を通し、医療における社会的行為、特に健康への希望切なる人々はもとより、少子高齢化社会における看護師の姿勢について学習し、これに対応しうる優能な人材を育成する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）人間と社会 ・人間とは何か ・社会的弱者 ・個人と社会
4～5	2）家族
6～9	3）地域社会 ・地域社会における生活とその変化 ・地域社会の発展 ・農村社会と都市社会
10～12	4）現代社会と現在文化
13～14	5）社会問題
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	家　族　論	1（15）	1年前期	講義
担当教員	岡田正彦			

1．授業概要

激しい社会変化の中で家族を取りまく環境も大きく変わり、様々な家族の問題が生じている。また、画一的な家族観が機能しなくなり、新しい「家族」を創造し発達させることが求められている。そこで、現代の家族の状況とそれを取り巻く諸問題を概観し、創造すべき家族のあり方について検討する。

2．到達目標

家族に関する基礎知識を学ぶとともに、家族の問題を自らの生涯設計の中で現実的問題として捉え、検討することにより、家族に関わる知識・技能及び態度の向上を試みる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）家族のとらえ方
2～3	2）家族の構成要素
4～5	3）家族の機能
6	4）家族と社会
7	5）学習課題としての家族
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	教　育　学	1（30）	2年前期	講義
担当教員	伊藤安浩			

1．授業概要

「教育」はすべての人間に関係する事柄でありながら、一般的には、それが自覚的・反省的な考察の対象となる機会は決して多くはない。本講義は、人間の成長・発達にとっての「教育」の本来的な意義について理解すること、そして、教育的な観点から子ども・人間という存在を理解することをねらいとする。

2．到達目標

人間の成長・発達にとっての「教育」の本来的な意義を理解し、さらに、子ども理解・人間理解についての基礎的な資質や態度を養うことを目標とする。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）「教育」の現状と批判的検討
2	2）語源から見た「教育」
3～4	3）人間の成長・発達に対する「未成熟」の意味
5～7	4）アダムソン『野生のエルザ』とイタール『アヴェロンの野生児』の2つの事例に見る、人間の成長・発達に対する「教育」の意義
8～10	5）歴史的・社会的な文脈における「子ども」
11～12	6）アメリカとの比較における日本の「子ども」観の特徴
13～14	7）「子ども」の成長・発達に対する「家族」の意義
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
基礎分野	英　　語	1（30）	1年前期	講義
担当教員	橋本 美喜男			

1．授業概要

国際化が進む医療の世界で、世界共通語としての英語の基礎学力を身につけるとともに基本的なコミュニケーション能力を養う。また、看護専門職の仕事に役立たせるため、看護師として知っておくべき医学英語を学ぶ。

2．到達目標

1）英検2級レベル程度の基礎的コミュニケーション能力を身につける。
2）実際の看護の現場で用いられている医学英語を理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）英語の子音と母音の聞き取りと発音
4～7	2）「起きる」「御飯を食べる」等の日常の行為を英語で表現する。
8～10	3）身体の部位や病名を英語で表現する。
11～14	4）「体温を測る」「注射をする」等の看護における行為を英語で表現する。
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

Because We Care-English for Healthcare Professionals：センゲージラーニング

参考文献

基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	リラクゼーション	1（15）	1年前期	講義・実技
担当教員	岡田理絵			

1．授業概要

自己の身体機能の調整や増進について学び、ウェルネスを保つことができる。また、メンタルヘルス教育の実践をとおして「心とからだの健康づくり」をはかる。

2．到達目標

「自分のからだの再発見」、「自分への気づき」によって、自分自身のからだを大切にするセルフケア能力や生き生きとした自分の感情を発見し、本当の自分を回復することを目標とする。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）リラックス法　・二人のためのリラックス法　・全身リラックス法
2～3	2）コミュニケーションの発見
4～5	3）筋リラクゼーション
6～7	4）自律訓練法、呼吸法
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

専門基礎分野

専門基礎分野の考え方

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる分野であり、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の３つの内容から構成する。

人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に対する観察力・判断力を強化するため、生化学、解剖生理学、微生物学、病理学、栄養学、薬理学を学ぶ。また、解剖生理学演習および臨床病態学演習をとおして人体の主要な臓器の構造と働きを理解し、臨床で活用できるように事例を用いて学ぶ。

人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うため、保健医療論、公衆衛生学、保健行政論、関係法規、社会福祉を学ぶ。また、社会福祉演習をとおして臨床での実際の保健医療福祉に関する基本理念、関係制度、関係する職種の役割を学び理解を深める。

＜専門基礎分野の構成＞

人体の構造と機能
［６単位：180時間］
- 生 化 学
- 解剖生理学Ⅰ
- 解剖生理学Ⅱ
- 解剖生理学Ⅲ
- 解剖生理学Ⅳ
- 解剖生理学演習

疾病の成り立ちと回復の促進
［10単位：285時間］
- 微生物学
- 病理学Ⅰ
- 病理学Ⅱ
- 病理学Ⅲ
- 病理学Ⅳ
- 病理学Ⅴ
- 薬 理 学
- 栄 養 学
- 臨床病態学演習Ⅰ
- 臨床病態学演習Ⅱ

健康支援と社会保障制度
［６単位：120時間］
- 保健医療論
- 公衆衛生学
- 保健行政論
- 関係法規
- 社会福祉Ⅰ
- 社会福祉Ⅱ

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	生　化　学	1（30）	1年前期	講義
担当教員	松尾哲孝			

1．授業概要

生物学や生化学の基礎的な内容を広く学習して、専門科目の履修に必要な基礎知識の習得を目指す。

2．到達目標

生命体の構造と機能を、分子・細胞・組織・器官・個体の各レベルにわたって学習し、生物学・生化学の基礎的な知識の習得、並びに生命現象の統一的な理解を図る。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）細胞の構造と機能・細胞小器官の働き ・細胞の増殖・組織と器官 ・原形質の化学成分と働き
3～4	2）生体の化学反応と酵素の役割
5～7	3）物質交代とエネルギー交代 ・異化の過程とＡＴＰの合成 ・呼吸器官と循環器官
8～10	4）体の恒常性の維持 ・ホルモン ・血液　・免疫
11～12	5）発生と分化 ・発生のしくみと器官の分化・ヒトの発生
13～14	6）生命の連続性と遺伝 ・ＤＮＡの複製・転写と翻訳遺伝子の異常と分子遺伝子
15	テスト・まとめ

5．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

6．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔2〕生化学 ： 医学書院

参考文献

専門基礎分　野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅰ	1（30）	1年前期	講義
担当教員	紀　瑞成			

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養う。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）解剖学を学ぶための基礎知識 人体の階層性（細胞、組織、器官、系統）、区分
4～6	2）身体の支持と運動 全身の骨格と筋
7～8	3）体液の調整と尿の生成 腎臓、排尿路
9	4）内臓機能の調整 自律神経、内分泌腺と内分泌細胞
10	5）身体機能の防御と適応 皮膚の構造、生体の防御機能（非特異的防御機能、免疫）、 生体防御の関連臓器（リンパ節・胸腺・脾臓）
11～14	6）生殖・発生と老化の仕組み 男性生殖器、女性生殖器、受精と胎児の発生
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム

参考文献

カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分　野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅱ	1（30）	1年前期	講義
担当教員	紀　瑞成			

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養う。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）栄養の消化と吸収 口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
4～6	2）呼吸と血液のはたらき 呼吸器系の構造と機能 血液の組成と機能
7～9	3）血液の循環とその調整 心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環系の構造
10～14	4）情報の受容と処理 神経系の構造と機能 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 目の構造と機能 耳の構造と機能
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム

参考文献

カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分　野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅲ	1（30）	1年前期	講義
担当教員	彌田　剛（実務経験者）　医療機関において作業療法士としての経験がある。			

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養う。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）呼吸
3～4	2）循環
5～7	3）消化
8～10	4）体液・血液
11～12	5）腎機能
13～14	6）内分泌
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム

参考文献

カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分　野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅳ	1（30）	1年後期	講義
担当教員	彌田　剛（実務経験者）　医療機関において作業療法士としての経験がある。			

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養う。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）筋系
3～4	2）感覚機能
5～6	3）運動
7～8	4）免疫・生殖
9～10	5）静止膜電位と興奮、興奮の伝達
11～12	6）中枢神経
13～14	7）自律神経
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム

参考文献

カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学演習	1（30）	1年前期	講義・演習
担当教員	牧　三貴（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

課題学習および解剖見学をとおして、講義内容の理解を深める。また、人体解剖実習見学では生命の尊厳や医の倫理について考え、看護の道を志す自覚と責任感を培う。

2．到達目標

1）人体の構造としくみを系統立てて整理し、理解することができる。
2）解剖された人体・臓器を目的を持って見学することにより、人体の構造と機能について理解を深める。
3）献体の意義と生命の尊厳について考える。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）オリエンテーション（学習の進め方・パフォーマンス課題の提示）
2	2）事前学習（個人ワーク・グループワーク）
3～4	3）生命維持に必要な細胞・組織・器官・臓器の理解に必要な知識の確認 （個別試験・チーム試験・授業）
5～7	4）生命維持に必要な細胞・組織・器官・臓器の理解を深める （個人ワーク・カンファレンス・発表）
8～10	5）健康な人の生命維持のために必要な人体の構造と機能についての理解を深める （個人ワーク・カンファレンス・発表）
11～13	6）健康な人の生命維持のために必要な人体の構造と機能図の作成 （個人ワーク・カンファレンス・発表）
14	7）解剖見学
15	8）健康な人の生命維持のために必要な人体の構造と機能についての理解の確認 9）まとめ （チーム試験・個別試験）

4．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎1　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 ： 医学書院
目で見るからだのメカニズム

参考文献

人体機能学入門（菱沼典子著）：メヂカルフレンド社
カラーでまなぶ　解剖生理学 ： 医学書院
イラストでまなぶ　解剖学　 ： 医学書院
イラストでまなぶ　生理学　 ： 医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	微 生 物 学	1 （30）	1年前期	講義
担当教員	君付和範			

1．授業概要

地球上には有機物を分解し地球の環境を美しく保つ微生物や人間や動物、植物に病気をおこす微生物がある。微生物の特徴と人間との関係、医療従事者として感染防御に必要な微生物学的知識および臨床上重要な寄生虫の性質・病原性を学ぶ。

2．到達目標

肉眼ではみえない生物＝微生物の世界を学び、医療に従事する上で必要な知識および寄生虫についての性質と病原性を学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）微生物と微生物学 2）細菌・真菌・ウイルスの性質
3～7	3）感染と感染症 4）感染に対する生体防御機構 5）感染源・感染経路からみた感染症 6）滅菌と消毒 7）感染症の検査と診断、治療 8）感染症の現状と対策
8～13	9）病原細菌と細菌感染症
	10）病原ウイルスとウイルス感染症
	11）病原真菌と真菌感染症
14	12）寄生虫と衛生動物
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　疾病のなりたちと回復の促進〔４〕 微生物学 ： 医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病 理 学 Ⅰ	1（30）	1年後期	講義

担当教員		
	病理学総論・病理検査	飯尾文昭（実務経験者）医療機関において医師としての経験がある。
	手術療法と麻酔	入江文彦（実務経験者）医療機関において医師としての経験がある。
	放射線療法と放射線検査	入江文彦（実務経験者）医療機関において医師としての経験がある。
	リハビリテーション療法	宮原龍司（実務経験者）医療機関において理学療法士としての経験がある。

1．授業概要

臨床医学には、多岐にわたって、病気の診断と治療という二本の柱がある。これらの二本の柱を堅固なものにするには、各々の病気の本質についての深い知識とその理解が必要である。看護行為は病気の治療のなかで重要な位置を占めており、その適切な実践には、その病気の本質に関する十分な知識とその理解が求められる。

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

さまざまな病気を理解するために病気の成り立ちである基本的な病変について、その病態生理・症状・診断を学ぶ。

治療および臨床検査について代表的な手術療法・リハビリテーション療法・放射線療法と検査・病理検査の基礎を学ぶ。

3．授業計画

＜病理学総論・病理検査＞　18時間

回数	内　　容
1～7	1）病理学総論 ①病因論　②先天異常・奇形と遺伝子疾患 ③代謝異常　④循環障害 ⑤腫瘍　⑥老化と死
8	2）病理検査
9	テスト（100点）・まとめ

＜手術療法と麻酔＞　4時間　　＜放射線療法と放射線検査＞　2時間

回数	内　　容
1～2	1）手術療法と麻酔
3	2）放射線療法と放射線検査
時間外	テスト（50点）

＜リハビリテーション療法＞　6時間

回数	内　　容
1～3	1）リハビリテーション療法
時間外	テスト（50点）

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

病理学総論、病理検査 ‥‥‥ 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学 ： 医学書院

手術と麻酔 ‥‥‥‥‥‥‥ 系統看護学講座　専門分野　〔4〕臨床看護総論 ： 医学書院
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論 ： 医学書院

リハビリテーション療法 ‥‥ 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 ： 医学書院

放射線療法と放射線検査 ‥‥ 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学 〔4〕臨床看護総論 ： 医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病 理 学 Ⅱ	1（30）	1年後期	講義

担当教員			
	運動器	糸永一朗（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある
	腎・泌尿器	澁谷忠正（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	循環器	木﨑佑介（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

運動器・腎泌尿器・循環器の代表的疾患の病態生理・症状・治療・分類を理解する。

3．授業計画

＜運動器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 骨折、脱臼、捻挫、末梢神経麻痺等 2）検査と治療・処置 画像検査、筋電図、関節鏡検査、生検、保存療法、手術療法等 3）疾患の理解 椎間板ヘルニア、大腿骨頸部骨折、四肢切断、骨粗鬆症、橈骨遠位端骨折、変形性膝関節症、変形性股関節症、関節リウマチ、末梢神経損傷、腫瘍等
時間外	テスト（100点）

＜腎・泌尿器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 尿の異常、浮腫、脱水、尿毒症等 2）検査と治療・処置 尿の検査、腎機能検査、透析療法、画像検査、腎移植等 3）疾患の理解 腎炎、尿路感染症、尿路結石、急性腎不全、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、腫瘍、男性生殖器の疾患等
時間外	テスト（100点）

＜循環器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 胸痛、動悸、不整脈、チアノーゼ、ショック等 2）検査と治療・処置 心電図、心エコー、心臓カテーテル、冠状動脈バイパス術、ペースメーカー等 3）疾患の理解 虚血性心疾患、心不全、高血圧、心臓弁膜症、動脈疾患、先天性心疾患等
時間外	テスト（100点）

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

運動器系 ･･････ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔10〕運動器 ： 医学書院
腎・泌尿器系 ･･･ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔８〕 腎・泌尿器 ： 医学書院
循環器系 ･･････ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔３〕 循環器 ：医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病 理 学 Ⅲ	1（30）	1年後期	講義

担当教員		
	消化器	宇都宮健志（実務経験者） 医療機関において医師としての経験がある。
	呼吸器	森本卓哉（実務経験者） 医療機関において医師としての経験がある。
	血液・造血器	坪山明寛（実務経験者） 医療機関において医師としての経験がある。

1. 授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2. 到達目標

消化器・呼吸器・血液･造血器系の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3. 授業計画

＜消化器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 嚥下障害、腹痛、吐血・下血、腹水、黄疸等 2）検査と治療・処置 腫瘍マーカー、内視鏡検査、生検、薬物療法、手術療法、ドレナージ等 3）疾患の理解 食道がん、胃・十二指腸疾患、腸・腹膜疾患、肝臓疾患、膵臓・胆道疾患等
時間外	テスト（100点）

＜呼吸器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 咳嗽、喀痰、血痰・喀血、呼吸困難、チアノーゼ、ばち指等 2）検査と治療・処置 胸水検査、内視鏡検査、呼吸機能検査、胸腔ドレナージ、手術療法等 3）疾患の理解 肺炎、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）、結核、気胸、胸膜炎、気管支喘息、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群、肺がん等
時間外	テスト（100点）

＜血液・造血器＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 貧血、リンパ節腫脹、出血傾向 2）検査と治療・処置 骨髄穿刺、輸血、造血幹細胞移植 3）疾患の理解 貧血、血友病、白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患等
時間外	テスト（100点）

4. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5. テキスト・参考文献

使用テキスト

消化器系 ･････････ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔５〕消化器 ： 医学書院
呼吸器系 ･････････ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔２〕呼吸器 ： 医学書院
血液・造血器系 ･･ 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔４〕血液・造血器 ： 医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病 理 学 Ⅳ	1（30）	2年前期	講義

担当教員			
	脳・神経系	郷田　周（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	内分泌・代謝	後藤孔郎（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	免疫・感染症	藤川陽祐（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

脳神経系・内分泌系・免疫・感染症の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3．授業計画

＜脳・神経系＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 頭痛、意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、頭蓋内圧亢進、髄膜刺激症状等 2）検査・診断と治療・処置 画像診断、電気生理学的検査、脳脊髄液検査、手術療法、薬物療法等 3）疾患の理解 クモ膜下出血、脳出血、脳腫瘍、頭蓋内圧亢進、頭部外傷、、脳梗塞、ギランバレー症候群、筋委縮性側索硬化症、筋ジストロフィー、パーキンソン病、てんかん、アルツハイマー病等
時間外	テスト（100点）

＜内分泌・代謝＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1）症状と病態生理 体重変化・身長の異常、神経・筋症状等 2）検査・診断と治療 内分泌の検査等 3）疾患の理解 内分泌疾患（甲状腺疾患、副腎疾患他）、代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症・メタボリックシンドローム他）等
時間外	テスト（100点）

＜免疫・感染症＞　10時間

回数	内　　容
1～5	1．免疫 1）症状と病態生理 免疫の仕組みとアレルギー、アナフィラキシー、アレルギー反応の分類等 2）検査・診断と治療 薬物療法、アレルゲン免疫療法等 3）疾患の理解 気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎等 2．膠原病 1）症状と病態生理 自己免疫疾患の機序、レイノー現象、皮膚・粘膜現象等 2）検査と治療 3）症状と疾患の理解 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、ベーチェット病、多発性筋炎、皮膚筋炎等

	３．感染症 １）感染症とは ２）検査・診断と治療 薬物療法等 ３）疾患の理解 敗血症、真菌感染症、寄生虫感染症、ＨＩＶ感染症、多剤耐性菌感染症等
時間外	テスト（100点）

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

脳・神経系 …… 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔７〕 脳・神経 ： 医学書院
内分泌系 …… 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔６〕 内分泌・代謝 ： 医学書院
免疫・感染症 … 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔11〕 アレルギー　膠原病　感染症

参考文献

イラストで学ぶ生理学：医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅴ	1（30）	2年前期	講義

担当教員	眼	嵜野祐二（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	耳鼻咽喉	篠村夏織（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	皮膚	角沖史野（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
		高木杏子（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
	歯・口腔	木付暁子（実務経験者）	医療機関において歯科医としての経験がある。
	女性生殖器	井上貴史（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
		島本久美（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。
		竹内正久（実務経験者）	医療機関において医師としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

感覚器・歯･口腔・女性生殖器の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3．授業計画

＜眼＞　6時間

回数	内　　容
1～3	1）症状と病態生理 視力障碍、視野異常、飛蚊症、充血等 2）検査と治療・処置 視野検査、眼底検査、手術療法等 3）疾患の理解 白内障、緑内障、網膜剥離、眼底の疾患、炎症性の疾患
時間外	テスト（50点）

＜耳鼻咽喉＞　6時間

回数	内　　容
1～3	1）症状と病態生理 難聴、めまい、鼻出血、咽頭痛等 2）検査と治療・処置 聴力検査、平衡感覚検査、手術療法等 3）疾患の理解 中耳炎、メニエール病、突発性難聴、鼻アレルギー、慢性副鼻腔炎、扁桃炎、喉頭がん等
時間外	テスト（50点）

＜皮膚＞　6時間

回数	内　　容
1～3	1）症状と病態生理 発疹、掻痒等 2）検査と治療・処置 貼付試験、掻把試験、薬物療法、レーザー療法等 3）疾患の理解 アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、熱傷、褥瘡、蜂窩織炎、帯状疱疹等
時間外	テスト（50点）

＜歯・口腔＞　６時間

回数	内　　容
１～３	１）症状と病態生理 口腔症状、顎口腔機能障害 ２）検査と治療・処置 画像検査、補綴治療、矯正歯科治療等 ３）疾患の理解 う蝕および歯髄疾患、歯周炎、アフタ性潰瘍、腫瘍および腫瘍類似疾患等
時間外	テスト（50点）

＜女性生殖器＞　６時間

回数	内　　容
１～３	１）症状と病態生理 出血、帯下、外陰部掻痒感等 ２）診察・検査と治療・処置 腟鏡、細胞診、コルポスコピー等 ３）疾患の理解 外陰炎、子宮筋腫、子宮頸がん、子宮体がん、子宮内膜症、胞状奇胎、卵管の疾患、卵巣の疾患、更年期障害、不妊症、性感染症等
時間外	テスト（50点）

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

感覚器系 …… 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔13〕眼 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔12〕皮膚 ： 医学書院
歯・口腔系 … 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔15〕歯・口腔 ： 医学書院
女性生殖器 … 系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔９〕女性生殖器 ： 医学書院

参考文献

標準眼科学 ： 医学書院
現代の眼科学 ： 金原出版

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	薬　理　学	1（30）	1年後期	講義
担当教員	平川英敏（実務経験者）　医療機関において薬剤師としての経験がある。			

1. 授業概要

疾病からの回復の促進と患者の安全を守るために必要な基礎的知識および薬物療法における留意点を理解する。

2. 到達目標

現在広く使われている医薬品について、その特徴・使い方、等主要な病態の治療に対して、何故、どのような役割を果たしているのか、“薬識”について理解を深める。

3. 授業計画

回数	内　　容
1	1）薬理学総論（薬の有効性を高め、安全性を保つには、総括）
2	2）化学療法薬（抗生物質・抗癌剤・消毒）
3	3）末梢神経作用薬
4	4）中枢神経作用薬
5	5）炎症抗アレルギー剤（副腎皮質ステロイド・痛風薬等）
6	6）心臓・血管系作用薬
7～8	7）呼吸器・消化器・生殖器系作用薬
9～10	8）物質代謝作用薬（ホルモン、ビタミン）
11	9）生物学的製薬・ワクチン薬等
12	10）救急薬・毒物・薬物中毒とその処置
13	11）漢方薬
14	12）検査薬・診断薬
15	テスト・まとめ

4. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5. テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎 疾患のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 ： 医学書院

今日の治療薬 ： 南江堂

参考文献

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	栄　養　学	1（30）	1年後期	講義
担当教員	吉澤香織			

1．授業概要

健康の維持・増進や疾病の予防・治療に対して食事が大きく関わっている。体内での栄養素の働きを理解することによって食と健康の関係を認識するとともに、患者にとって食事が重要な医療行為の一つであることを理解し、医療現場で応用できる知識を身につける。

2．到達目標

1）患者の摂取する飲食物に含まれる栄養素の種類や体内での役割を理解する。
2）栄養アセスメントを理解する。
3）日本人の食事摂取基準と食生活の現状を理解する。
4）さまざまなライフステージにおける栄養を理解する。
5）さまざまな疾患や機能障害をもった患者に対する食事療法の理論と実際について理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）栄養・栄養素とは
2	2）栄養素の種類と働き
3	3）食事摂取基準
4	4）栄養状態の評価・判定
5	5）現在の食生活
6	6）ライフステージと栄養
7	7）検査食
8～9	8）治療による回復を促すための食事
10～11	9）疾病を治療するための食事
12	10）嚥下障害があるときの食事
13	11）経口摂取できない患者のための栄養管理
14	12）食事指導
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔3〕　栄養学 ： 医学書院
糖尿病食事療法のための食品交換表

参考文献

系統看護学講座　別巻　栄養食事療法：医学書院

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	臨床病態学演習Ⅰ	1（15）	2年前期	講義・演習
担当教員	安部涼子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

各種検査の目的、意義、方法を学ぶ。また、それらを総合的に理解する能力を養う。

2．到達目標

1）各種検査目的、意義、方法がわかる。
2）検査データや所見のアセスメントを学び、看護へ活かすことができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）主な臨床検査とデータの読み方 ①一般検査　②血液学的検査　③化学検査 ④病理検査　⑤生体検査　⑥画像検査
2～3	2）主な疾患の検査とアセスメント、看護への活かし方 ①呼吸器系
4～5	②神経系の患者の検査とアセスメント
6～7	③循環器の患者の検査とアセスメント
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

ケアに使える画像の見かた：照林社
看護に活かす検査値の読み方・考え方：総合医学社

参考文献

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	臨床病態学演習Ⅱ	1（30）	2年前期	演習
担当教員	牧 三貴　他（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

看護を展開する上で、対象者の身体面の理解は必要不可欠である。特に疾病を持つ患者の場合、身体的側面を正しく理解することは、適切でよりよい看護を導くための大切なプロセスの一部である。そこで、ここではグループワークを通して解剖生理学や病理学などの知識を活用し、事例を通して対象の病気の経過・行われている治療・検査・処置の根拠を理解し、看護の判断をするための基礎能力を養う。

2．到達目標

1）行われている治療・処置の意義と患者への効果がわかる。
2）病気の経過と今後の予測が理解できる。
3）病態関連図を描き、病気による身体の変化を捉えることができる。
4）グループワークを通して責任をもって自己の役割を果たす。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）オリエンテーション（学習の進め方、事例紹介、パフォーマンス課題の提示）
2	2）事前学習（個人ワーク・グループワーク）
3～4	3）病態関連の理解に必要な知識の確認 （個別試験・チーム試験・授業）
5～9	4）病気の経過・検査・治療の関連について理解を深める （個人ワーク・カンファレンス・発表・授業）
10～13	5）病態を理解して病態関連図を書く （個人ワーク・カンファレンス・発表）
14～15	6）病態関連の理解の確認・まとめ （チーム試験・個別試験）

4．評価方法

評価表に基づき行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、実習時間が不足した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし

参考文献

疾患別 看護過程の展開 ： 学研
看護過程に沿った対症看護：学研
看護に活かす検査値の読み方・考え方：総合医学社
系統看護講座　専門基礎　人体の構造と機能［1］解剖生理学：医学書院
今日の治療薬：南江堂

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	保健医療論	1（15）	1年前期	講義
担当教員	木下忠彦（実務経験者）　医療機関において医師としての経験がある。			

1．授業概要

本講義では、人々の健康の維持・増進のために必要な保健・医療・福祉の統合という今日的課題を軸に、その現状・背景・問題点などを解説することで社会に貢献する専門職の方向性や視点を示唆することをねらいとしている。つまり、社会の変化に伴い変化する保健・医療を総合的に把握し、今後の保健医療の中で看護が果たす役割を考える基盤とする。

2．到達目標

人々の健康の維持・増進のために必要な保健・医療・福祉の統合という観点から、その現状・背景･問題点などが理解できる。また、専門職の目指すべき方向性や視点について考えることができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）健康と疾病
2～3	2）生活の場における健康づくりの流れと概要
4～5	3）社会環境に応じて変化してきた施策の歩みと今日像
6～7	4）医療の現状と人的・物的資源の活用 5）現代医療の諸問題
8	テスト

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

新体系看護学全書　別巻　現代医療論 ： メヂカルフレンド社

参考文献

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	公衆衛生学	1（30）	2年前期	講義
担当教員	工藤政信（実務経験者）　医療機関において医師としての経験がある。			

1．授業概要

人間が健康生活を維持するための諸条件を学び、社会における組織的な保健活動・衛生教育を理解する。

2．到達目標

1）生活環境と健康の関わり方を学ぶ。
2）疫学の概念、基本的な考え方を学ぶ。
3）食の安全性･健康への影響とその課題･対策を学ぶ。
4）公衆衛生における健康教育の意義および基本的考え方を学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）公衆衛生の理解 2）人口と公衆衛生
3～5	3）環境と公衆衛生
6～7	4）食と公衆衛生
8～9	5）国民の健康と保健統計
10～11	6）疾病の疫学と予防
12～13	7）公衆衛生と健康教育
14	8）公衆衛生における今日的課題と展望
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［2］　公衆衛生：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

参考文献

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	保健行政論	1（15）	2年後期	講義

担当教員		
	保健行政	姫嶋洋子（実務経験者）　保健機関において保健師としての経験がある。
	地域保健	姫嶋洋子（実務経験者）　保健機関において保健師としての経験がある。
	学校保健	首藤八代井（実務経験者）　教育機関において養護教諭としての経験がある。
	産業保健	佐藤玉枝（実務経験者）　保健機関において保健師としての経験がある。

1．授業概要

保健行政の仕組みと役割について理解を深める。

2．到達目標

1）保健行政の概要がわかる。
2）保健活動の実際がわかる。

3．授業計画

回数	内　容
1～3	＜保健行政＞　6時間 1）中央保健行政 2）地域保健行政と保健所 3）公衆衛生と地域保健医療福祉計画 評価：レポート　40点
4～5	＜地域保健＞　4時間 1）地域保健対策 評価：レポート　25点
6	＜学校保健＞　2時間 1）学校保健の体系 2）学校保健管理 3）学校保健教育 評価：レポート　10点
7～8	＜産業保健＞　4時間 1）産業保健の動向 2）職場における健康管理 評価：レポート　25点

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［2］　公衆衛生：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

参考文献

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	関係法規	1（15）	2年前期	講義
担当教員	小山敬晴			

1．授業概要

近時、少子・高齢化社会を迎え、それに対応するため、保健・医療・福祉等の諸法規が整備されている。保健・医療・福祉の分野においては各種の制度や関連法令がある。それらの法的基盤を知ることで、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じた社会資源の活用ができるように援助するための知識と基礎的な能力を養う。

2．到達目標

保健・医療・福祉に関する各種制度や関連法令に対する理解を深める。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）法規の概念 2）医事法規
2	3）薬事法規
3	4）保健衛生法規
4	5）予防衛生法規
5	6）公害関係法規
6	7）福祉関係法規
7	8）看護と関係法規
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度［4］：関係法規：メヂカルフレンド社

看護六法（最新版）：新日本法規

参考文献

国民衛生の動向 ： 厚生労働統計協会

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	社会福祉Ⅰ	1（30）	1年後期	講義
担当教員	工藤　剛（実務経験者）　福祉機関において社会福祉士としての経験がある。			

1．授業概要

人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、それらを調整するための基礎的能力を養うため、社会保障制度の全体像について理解を深める。

2．到達目標

1）社会保障制度の概念および種類がわかる。
2）社会福祉の概念および理念の変遷が理解できる。
3）社会福祉の概要が理解できる。
4）公的扶助のしくみと内容がわかる。
5）社会保険のしくみと内容がわかる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）生活と福祉
2～3	2）社会保障の概念・歴史・制度体系
4～5	3）我が国の社会保障制度
6～8	4）社会福祉の歴史と援助技術
9～11	5）社会福祉の諸制度と施策
12～13	6）社会福祉行政のしくみ
14	7）社会保障、社会福祉改革の動向
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト･参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度［3］：医学書院

医療福祉総合ガイドブック：編集　NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会： 医学書院

参考文献

社会福祉小六法 ： ミネルヴァ書房

専門基礎分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	社会福祉Ⅱ	1（15）	2年後期	講義・演習
担当教員	和田亮二（実務経験者）　福祉施設において社会福祉士としての経験がある。			

1．授業概要

具体的な事柄を通して、社会福祉で学んだ知識の理解を深める。

2．到達目標

1）事例検討を通して社会保障制度がどのように実施されているのかを理解できる。
2）社会福祉施設の法的位置づけ･事業内容･対象者の特徴、入所目的が理解できる。
3）社会生活を保障するための保健･医療･福祉の連携の必要性がわかる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～7	1）事例を通して社会保障制度の具体的な運用について考える。 ①社会福祉に関する基礎知識　・障害者総合支援法　・介護保険法 ②社会福祉施設について ③事例検討・事例を通して社会保障制度の具体的運用について考える。
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

なし　必要に応じてプリント配布

参考文献

医療福祉総合ガイドブック：編集　NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会： 医学書院
系統看護学講座　健康支援と社会保障制度［3］　社会保障・社会福祉：医学書院
看護職のための関係法規　：　ヌーベルヒロカワ

専 門 分 野

基礎看護学の考え方

基礎看護学は、看護の基盤となる理論や技術について学ぶ領域である。

看護学概論では、看護の歴史的変遷から看護の概念を学び、先人の看護理論を学ぶことで看護の本質を考えることをねらいとするとともに、看護師に求められる倫理観を養う。

基礎看護学Ⅰ、Ⅱでは、あらゆる場面に共通する基本技術を学ぶ。技術の概念では看護技術を学ぶにあたり、「技術とは何か」を学び、知識と技術をあわせもってはじめて技術習得になることを理解し、その後の学習や演習へ取り組む動機づけとする。また、コミュニケーション能力の向上のためにコミュニケーションの特徴、医療におけるコミュニケーションの重要性を学ぶ。感染予防の意義、標準予防策を学び、正しく実践できるようにする。バイタルサイン測定の技術を共通基本技術に位置付け、フィジカルアセスメントを学ぶ前の導入として呼吸、循環、体温の観察・測定・評価について学ぶ。さらに、看護過程展開の技術も共通基本技術とした。

基礎看護学Ⅲ、Ⅳ、Ⅴでは日常生活援助技術を学ぶ。日常生活行動の意義を知り、健康障害の程度に応じ日常生活を整えるための援助の方法を学ぶ。看護技術の演習では、看護の基盤となる基本的な技術を学び、よりリアルな場面に近いシミュレーションも取り入れる。また、看護師として倫理的に行動できるよう演習中の態度面の強化も行う。

基礎看護学Ⅵでは、診療時の補助技術として与薬と検査で構成した。

基礎看護学Ⅶは、フィジカルアセスメントと学習支援で構成した。フィジカルアセスメントでは、全身のアセスメントをする力を養う。問診、視診、触診、打診、聴診については演習を行う。それまでの知識を必要とするやや高度な学習内容となるため、共通基本技術であるが、基礎看護学の最後に位置付けた。

基礎看護学Ⅷでは、演習で学んだ技術を正確に身につけることをねらいとする。「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」の「Ⅰ.実習で単独で実施できる」項目で、特に実習において必要な①環境を整え移動の介助、②バイタルサイン測定・洗髪、③オムツ交換、感染予防に絞り、実技テストを行い、技術の習得を目指す。

臨床看護総論は、看護の対象者の状況（ライフサイクル、場、健康状態、症状、治療）に応じて基礎的知識や技術がどのように統合するか学ぶ。症状別看護では、取りあげる症状を限定し発生のメカニズムと基本的な看護方法を関連させて考える過程を学び、他の症状に対しても適応できる能力を養う。治療別では、化学療法、放射線療法、手術療法、創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護を学ぶ。

看護研究では、看護に対する考え方を深化･発展させ自ら学び続ける基礎的能力を養うため、看護研究の基礎を学び、実習の事例をもとにケーススタディに取り組む。

臨地実習では対象の基本的欲求を充足できるための援助技術の活用や看護を実践するために必要な問題解決技術を活用する能力を養うとともに人間の多様な価値観を尊重した態度を学ぶ。

＜基礎看護学の構成＞

- 看護学概論［1単位：30時間］
  - 看護の歴史、看護の概念
  - 看護倫理
  - 看護理論
- 基礎看護学Ⅰ（共通基本技術①）［1単位：30時間］
  - 技術の概念
  - コミュニケーション
  - 感染予防
- 基礎看護学Ⅱ（共通基本技術②）［1単位：30時間］
  - バイタルサイン
  - 看護過程
- 基礎看護学Ⅲ（日常生活援助技術①）［1単位：30時間］
  - 環境
  - 活動・休息
- 基礎看護学Ⅳ（日常生活援助技術②）［1単位：30時間］
  - 食べる
  - 排泄
- 基礎看護学Ⅴ（日常生活援助技術③）［1単位：30時間］
  - 清潔
- 基礎看護学Ⅵ（診療の補助技術）［1単位：30時間］
  - 与薬
  - 検査・診療
- 基礎看護学Ⅶ（共通基本技術③）［1単位：30時間］
  - フィジカルアセスメント
  - 学習支援
- 基礎看護学Ⅷ［1単位：15時間］
  - 基礎看護技術の統合
- 臨床看護総論［1単位：30時間］
  - 主要症状別看護（呼吸困難、痛み、悪寒・発熱）
  - 経過別看護
  - 治療別看護（放射線療法、食事療法、手術療法、化学療法、創傷処置・創傷ケア）
- 看護研究［1単位：30時間］
- 臨地実習［３単位：135時間］
  - 基礎看護学実習
    - 基礎看護学実習Ⅰ－ａ
    - 基礎看護学実習Ⅰ－ｂ
  - 基礎看護学実習Ⅱ

	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
専門分野	看護学概論	1（30）	1年前期	講義

担当教員	看護の歴史 看護の概念 看護倫理	佐藤玉枝（実務経験者）	保健機関において保健師としての経験がある。
	看護理論（ナイチンゲール）	大塚里美（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
	看護理論（ヘンダーソン）	村上朝代（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
	看護理論（オレム）	伊東朋子（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜看護の歴史＞＜看護の概念＞＜看護倫理＞

看護の歴史的変遷や概念を学ぶことで看護の本質を知り、看護学を学ぶ導入とする。

＜看護理論＞

まず、人間と環境および健康と看護について学び、さらにナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムの看護論を理解することによって、看護の本質と基礎的な考え方を学ぶ。

2．到達目標

＜看護の歴史＞＜看護の概念＞＜看護倫理＞

1）時代の変遷の中で看護の本質と役割を学ぶ。

2）わが国の看護教育制度と教育の特殊性について理解する。

3）看護倫理が求められるようになった社会的背景を理解し、我が国における看護倫理確立の経緯および専門職として看護師に求められる看護倫理について学ぶ。

＜看護理論＞

1）ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムの看護論を理解し、看護の本質を知る。

2）ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレムの看護の考え方を通して自己の看護観を養う。

3．授業計画

＜看護の歴史＞＜看護の概念＞＜看護倫理＞　14時間

回数	内　　容
1	＜看護の歴史＞ 1）看護の起源と本質　　2）宗教と看護 3）我が国の看護の歴史　　4）看護教育制度の変遷
2～4	＜看護の概念＞ 1）看護の概念と構成要素　　2）看護の対象 3）看護の目的と役割　　4）看護の理念 5）国際看護師協会の定義　　6）定義の進展
5～6	＜看護倫理＞ 1）職業倫理としての看護倫理　2）看護倫理の経緯 3）看護実践上の倫理的概念　　4）看護倫理の策定 5）看護職者の自律性と看護倫理
7	テスト（100点）・まとめ

＜看護理論　ナイチンゲール＞　６時間

回数	内　　容
１～３	１）ナイチンゲールの歴史と業績 ２）看護の本質 ３）ナイチンゲール看護論の構造 ４）看護とは、人間とは、健康とは ５）「看護覚え書」を構造化して読む ６）看護のものさし ７）ナイチンゲールの言葉
時間外	レポート（40点）

＜看護理論　ヘンダーソン＞　６時間

回数	内　　容
１～３	１）ヘンダーソンの生きた時代、経歴、業績 ２）ヘンダーソンの考える看護・人間・健康・環境とは ３）ヘンダーソンの考える看護の方法 ４）基本的欲求、基本的看護とは
時間外	レポート（30点）

＜看護理論　オレム＞　６時間

回数	内　　容
１～３	１）オレム看護論の概要 ２）オレムに影響を与えた理論 ３）オレム看護論の理論構成 ４）セルフケア理論
時間外	レポート（30点）

４．評価方法

終講試験およびレポートの評価に基づき行う。終講試験を100点、レポートを100点、合計200点を100点満点に換算した成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

５．テキスト・参考文献

＜看護の歴史、看護の概念、看護倫理＞

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［１］：医学書院

Basic＆Practice 看護倫理：学研

＜看護理論＞

使用テキスト

ナイチンゲール看護論

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［１］　看護学概論：医学書院

看護覚え書：現代社

ナイチンゲール看護論・入門：現代社

ヘンダーソン看護論

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［１］　看護学概論：医学書院

ヘンダーソン・ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント：ヌーヴェルヒロカワ

オレム看護論

オレムのセルフケアモデル　事例を用いた看護過程の展開：ヌーヴェルヒロカワ

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅰ	1（30）	1年前期	講義・演習

担当教員		
	技術の概念・コミュニケーション	村上朝代（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	感染予防	和田典子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜技術の概念＞　＜コミュニケーション＞

看護技術の概念と看護における技術の位置づけ、基本原則を理解することで、看護技術を学ぶための心構えや基本となる考え方を養う。さらにはあらゆる場面において看護行為に共通する基本技術として、対象理解と看護実践を効果的にするためのコミュニケーションの基本について学ぶ。

＜感染予防＞

看護場面における安全を守る共通基本技術として、感染予防の基本を学ぶ。

2．到達目標

＜技術の概念＞　＜コミュニケーション＞

1）看護技術の特殊性を理解する。

2）看護技術の基本原則を理解する。

3）コミュニケーションの機能を理解し、効果的なコミュニケーション技術について学ぶ。

＜感染予防＞

1）消毒・滅菌法、感染経路遮断に必要な知識を習得する。

2）感染予防のための基本的技術を習得する。

3．授業計画

＜技術の概念＞　6時間　＜コミュニケーション＞　10時間

回数	内　　容
1～3	1．技術の概念 1）看護技術の特徴 2）基本原則 3）技術の構成 4）技術遂行のために求められる能力
4～7	2．コミュニケーション 1）コミュニケーションの意義 2）コミュニケーションの基礎 3）効果的なコミュニケーション 4）看護におけるコミュニケーション
8	テスト（100点）・まとめ

＜感染予防＞　14時間

回数	内　　容
1	1）感染とその予防の基礎知識
2	2）標準予防策（スタンダードプリコーション） 手指衛生、個人防護用具 3）感染経路別予防策
3	4）洗浄・消毒・滅菌 5）無菌操作
4	6）感染性廃棄物の取り扱い 7）針刺し防止策 8）医療施設における感染管理
5～6	演習：手指衛生、個人防護用具の着脱、無菌操作、滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の装着
7	テスト（100点）・まとめ

４. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算し、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５. テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［２］　基礎看護技術Ⅰ、医学書院
基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院
看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅱ	1（30）	1年前期	講義・演習

担当教員		
	バイタルサイン	右田良恵（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	看護過程	大塚里美（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜バイタルサイン＞

多くの看護場面において、対象の状態把握のために用いられる基本的技術として、バイタルサイン測定の基礎を学ぶ。

＜看護過程＞

看護が専門職であるために、看護行為は科学的で系統的であることが求められる。看護過程は、広義には看護を実践するための道筋であり、日々の看護実践を科学的にすることのできる道具である。看護過程を展開する技術を身につけ科学的な問題解決能力を養う。

2．到達目標

＜バイタルサイン＞

1）バイタルサイン、観察の意義が理解できる。

2）体温・脈拍・呼吸・血圧の正常と異常が判断できる。

3）バイタルサインを正確に測定できる。

＜看護過程＞

1）看護過程の構成要素と展開の方法を理解することができる。

3．授業計画

＜バイタルサイン＞　16時間

回数	内　　容
1	1）バイタルサインとは 2）バイタルサインの重要性
2	3）バイタルサインの観察、測定方法、留意点 ①体温
3	②脈拍
4	③呼吸
5～6	④血圧 ⑤意識レベル、一般状態
7	演習：バイタルサインの測定
8	テスト（100点）・まとめ

＜看護過程＞　16時間

回数	内　　容
1	1）看護過程とは 看護過程の5つの構成要素
2	2）看護過程を展開する際に基盤となる考え方
3	3）看護過程の各段階 ①アセスメント
4	②看護問題の明確化
5	③看護計画
6	④実施　⑤評価
7	4）看護記録
8	テスト（100点）・まとめ

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［２］　基礎看護技術Ⅰ：医学書院

基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院

看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅲ	1（30）	1年前期	講義・演習

担当教員		
	環境	高野　唯（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	活動・休息	牧　三貴（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜環境＞

日常生活における環境の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

＜看護過程＞

2．到達目標

＜環境＞

1）療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について学ぶ。

2）ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメーキング、リネン交換の実際について学ぶ。

＜活動・休息＞

1）人間にとっての活動と休息の意義を理解できる。

2）活動・休息に対する援助の方法が理解できる。

3）活動・休息に関する基本的な援助技術を身につける。

3．授業計画

＜環境＞　16時間

回数	内　　容
1	1）環境とは
2	2）環境調整の意義
3	3）患者の生活環境
4	4）病床の作り方と整備 ①ベッドメーキング
5	演習：ベッドメーキング
6	②臥床患者のリネン交換
7	演習：臥床患者のリネン交換
8	テスト（100点）・まとめ

＜活動・休息＞　16時間

回数	内　　容
1	1）基本的活動の援助 ①基本的活動の基礎知識（良い姿勢、ボディメカニクス）
2	②体位
3	③移動（体位変換・歩行・移乗・移送の援助の基礎知識、実際）
4～5	2）睡眠・休息の援助 ①基礎知識（睡眠の種類、睡眠のメカニズム、睡眠障害のアセスメント） ②睡眠・休息の援助
6	演習：安楽な体位、体位変換（基本）
7	演習：体位変換（応用）、車椅子、ストレッチャー
8	テスト（100点）・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ：医学書院

基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院　　看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅳ	1（30）	1年前期	講義・演習

担当教員		
	食べる	岡川良恵（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	排泄	村上朝代（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜食べる＞

日常生活における食事の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

＜排泄＞

日常生活における排泄の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2．到達目標

＜食べる＞

1）食事の意義を理解できる。
2）食事に関する基礎知識を習得する。
3）食事の援助方法を理解できる。
4）食事介助、経管栄養（経鼻）の基本動作が行えるようになる。

＜排泄＞

1）排泄の意義を理解できる。
2）排泄のメカニズム、正常・異常が理解できる。
3）排泄の援助方法が理解できる。
4）排泄の援助技術の基礎を身につけることができる。

3．授業計画

＜食べる＞　12時間

回数	内　　容
1	1）食事援助の基礎知識 ①栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ②医療施設で提供される食事の種類と形態
2	2）食事摂取の介助 3）摂食・嚥下訓練
3	演習：食事介助
4	4）非経口栄養摂取の援助
5	演習：経管栄養法
6	テスト（100点）・まとめ

＜排泄＞　18時間

回数	内　　容
1～2	1）自然排尿および自然排便の介助 ①自然排尿および自然排便の基礎知識 排泄の意義、排泄のメカニズム、アセスメント
3	②自然排尿および自然排便の介助 トイレ、床上排泄、おむつ
4	2）排便を促す援助 グリセリン浣腸、摘便
5	演習：尿器・便器のあてかた、浣腸
6	演習：おむつ交換
7	3）導尿 一時的導尿、持続的導尿
8	演習：一時的導尿
9	テスト（100点）・まとめ

４. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５. テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ：医学書院

基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院

看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅴ	1（30）	1年前期	講義・演習
担当教員	髙野　唯（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

＜清潔＞

日常生活における清潔保持および衣生活の意義を理解し、安全・安楽を考慮した援助を実践する能力を養う。

2．到達目標

1）清潔、衣生活の意義が理解できる。
2）病衣の選択、衣服の着脱の方法が理解できる。
3）清潔保持のための援助方法が理解できる。
4）臥床患者の洗髪、全身清拭、寝衣交換ができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識
3～6	②清潔の援助 入浴、シャワー浴、全身清拭、洗髪、手浴、足浴、陰部洗浄、整容、口腔ケア
7～8	2）病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②衣生活の援助
9～10	演習：全身清拭、陰部洗浄、寝衣交換
11～12	演習：手浴、足浴、口腔ケア
13～14	演習：洗髪
15	テスト（100点）・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表し、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ：医学書院
基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院
看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅵ	1（30）	1年後期	講義・演習

担当教員		
	与薬	牧　三貴（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	検査・診療	矢野裕子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜与薬＞

治療に伴う援助技術として安全・安楽に与薬が行えるための基礎を学ぶ。

＜検査・診療＞

診断・治療の補助技術として、検査・診療時の援助方法を学ぶ。

2．到達目標

＜与薬＞

1）与薬の目的・種類・機序について理解できる。
2）与薬における看護師の役割および事故予防策が理解できる。
3）それぞれの与薬方法について理解できる。
4）点滴静脈内注射、筋肉内注射、皮下注射の基本的動作が行える。

＜検査・診療＞

1）診察における看護師の役割、診療時の援助方法について理解できる。
2）検査時における看護師の役割、主な検査時の援助方法について理解できる。
3）採血、身体計測、包帯法の基本技術を習得する
4）身体計測、包帯法の基本技術を習得する。

3．授業計画

＜与薬＞　20時間

回数	内　　容
1～4	1）与薬とは、与薬の目的 2）与薬の種類と機序 ①経口　②注射（静脈内、筋肉内、皮下、皮内、輸液法） ③経皮滴与薬　④点眼　⑤点鼻　⑥　直腸内与薬 ⑦吸入 3）与薬方法と留意事項 4）与薬に伴う事故と予防策
5	演習：直腸内与薬
6	演習：筋肉内注射
7	演習：皮下注射
8～9	演習：点滴静脈内注射
10	テスト（100点）・まとめ

＜検査・診療＞　10時間

回数	内　　容
1～3	1）診察とは 2）身体各部計測 身長、体重、胸囲、腹囲、視力、握力 3）検査の意義と種類、検体の取り扱い、検査時の看護 検体検査、生体検査 4）採血　5）包帯法
4	演習：身体計測、包帯法
5	演習：採血
時間外	テスト（100点）・まとめ

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ：医学書院

基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院

看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅶ	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	フィジカルアセスメント	安部涼子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	学習支援	佐藤洋子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜フィジカルアセスメント＞

フィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を習得する。

＜学習支援＞

看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチ方法を学習する。

2．到達目標

＜フィジカルアセスメント＞

1）フィジカルアセスメントの必要性が理解できる。
2）フィジカルアセスメントの（問診、視診、触診、打診、聴診）の基本技術がわかる。
3）フィジカルアセスメントの所見の記述方法がわかる。

＜学習支援＞

1）看護における学習支援の目的と意義を理解する。
2）家庭や学校、職場、地域社会といった様々な場での学習支援のありかたについて学ぶ。
3）集団を対象とした学習支援の実施について学ぶ。

3．授業計画

＜フィジカルアセスメント＞　16時間

回数	内　　容
1	1）フィジカルアセスメントの概念
2	2）全身状態・皮膚・リンパ節・頭部のフィジカルアセスメント 3）呼吸器系のフィジカルアセスメント
3	4）循環器系のフィジカルアセスメント
4	5）腹部のフィジカルアセスメント
5	6）筋・骨格系のフィジカルアセスメント
6	7）中枢神経系のフィジカルアセスメント
7～8	演習 問診、視診（眼所見、神経所見）、触診、打診、 聴診（呼吸音、心音、腹部）
時間外	テスト（100点）

<学習支援>　16時間

回数	内　　容
1	1）看護における学習支援
2	2）健康に生きることを支える学習支援
3	3）健康状態の変化に伴う学習支援
4	4）学習支援の実際 ①個人を対象とした学習支援
5	②家族を対象とした学習支援 ③集団対象とした学習支援
6～7	演習：集団を対象とした学習支援
8	テスト（100点）・まとめ

４．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

＜フィジカルアセスメント＞

使用テキスト：初めてのフィジカルアセスメント：メヂカルフレンド社
フィジカルアセスメントワークブック：医学書院

＜学習支援＞

使用テキスト：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［２］基礎看護技術Ⅰ：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学Ⅷ	1（15）	1年後期	講義

担当教員			
	基礎看護技術の統合1	高野　唯（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
		牧　三貴（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
	基礎看護技術の統合2	右田良恵（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
		高野　唯（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
	基礎看護技術の統合3	和田典子（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。
		村上朝代（実務経験者）	医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

既習の知識・技術・態度を統合し、患者の状況に応じた技術を実践できる力を養う。

2．到達目標

1）原理・原則に基づいた技術を身につける。
2）既習の知識・技術・態度を統合し、患者の状況に応じた技術が実践できる。
3）自ら進んで技術練習に取り組む姿勢をもつ。

3．授業計画

＜基礎看護技術の統合1＞　5時間

回数	内　　容
1～2	1）オリエンテーション 2）技術練習
3	3）第1回実技テスト（100点） リネン交換、車椅子移乗

＜基礎看護技術の統合2＞　5時間

回数	内　　容
1～2	1）オリエンテーション 2）技術練習
3	3）第2回実技テスト（100点） バイタルサイン測定、洗髪

＜基礎看護技術の統合3＞　5時間

回数	内　　容
1～2	1）オリエンテーション 2）技術練習
3	3）第3回実技テスト（100点） おむつ交換、感染予防

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、実習時間が不足した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］　基礎看護技術Ⅰ：医学書院
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ：医学書院
基礎看護技術、阿曽洋子：医学書院
看護技術プラクティス：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	臨床看護総論	1（30）	1年後期	講義・演習

担当教員		
	主要症状・経過別看護	伊東朋子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	治療別看護	村上朝代（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜主要症状・経過別看護＞

主要症状のメカニズムと基本的看護の方法を学ぶ。代表的な症状に対応するための考え方や基本的な援助方法を学ぶ。

＜治療別看護＞

主な治療を受ける患者の特徴を理解し、治療が円滑におこなわれるための看護の役割・方法を学ぶ。

2．到達目標

＜主要症状・経過別看護＞

1）呼吸困難のメカニズムと援助方法について理解できる。
2）痛みのメカニズムと援助方法について理解できる。
3）悪寒・発熱のメカニズムと援助方法について理解できる。
4）吸引、酸素吸入、酸素ボンベの取り扱いの基本動作ができる。
5）温罨法、冷罨法の基本技術を習得する。
6）経過別看護の概念・患者の特徴・看護の役割が理解できる。

＜治療別看護＞

1）放射線療法を受ける患者の看護が理解できる。
2）化学療法を受ける患者の看護が理解できる。
3）手術療法を受ける患者の看護が理解できる。
4）輸血、創傷処置を受ける患者の看護が理解できる。

3．授業計画

＜主要症状・経過別看護＞　12時間

回数	内　　容
1～2	1）呼吸困難時の看護 吸引、吸入、酸素吸入、体位の工夫 2）痛みのある患者の看護 3）悪寒・発熱時の看護
3	演習：罨法
4	演習：吸引（口腔内、鼻腔内、気管内）、酸素吸入薬液吸入、パルスオキシメーター
5	4）経過別看護とは 5）各経過の定義 急性期、回復期、リハビリテーション期、慢性期、周手術期、終末期 6）経過別の患者のニードと看護の特徴
6	テスト（100点）・まとめ

＜治療別看護＞　18時間

回数	内　　容
1～2	1）放射線療法を受ける患者の看護 2）化学療法を受ける患者の看護 3）輸血を受ける患者の看護
3～4	4）手術療法を受ける患者の看護
5～6	5）創傷処置、創傷ケアを受ける患者の看護
7～8	演習： 術前・術後の看護、輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸血の取り扱い、 創傷処置（褥瘡処置も含む）
9	テスト（100点）・まとめ

4. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5. テキスト・参考文献

＜主要症状・経過別看護＞

使用テキスト：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］　臨床看護総論：医学書院
看護技術プラクティス：学研
看護過程に沿った対症看護：学研

＜治療別看護＞

使用テキスト：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］　臨床看護総論：医学書院
看護技術プラクティス：学研
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論
よくわかる周手術期看護：学研

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	看護研究	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	看護研究	大塚里美（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	ケーススタディ	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜看護研究＞

看護に対する科学的知識を深め、看護を発展的に展開できる研究の基礎を学ぶ。

＜ケーススタディ＞

実習で受け持った事例を通し、ケーススタディの実際を学ぶ。

2．到達目標

＜看護研究＞

1）看護研究の意義と方法を理解する。

2）看護研究に必要な文献検索の方法を理解する。

＜ケーススタディ＞

1）論文作成ができる。

2）効果的なプレゼンテーションができる。

3）講評ができる。

3．授業計画

＜看護研究＞14時間

回数	内　　容
1	1）看護研究とは 2）情報の検索と吟味
2	3）看護研究における倫理的問題
3	4）研究デザイン 5）データの収集
4	6）研究計画書 7）クリティーク
5	8）プレゼンテーション
6	9）ケーススタディの進め方
7	テスト（100点）・まとめ

＜ケーススタディ＞16時間

回数	内　　容
1～6	1）研究計画書の作成 2）文献検索 3）論文作成 4）抄録作成
7～8	5）発表 6）講評
時間外	評価（100点）

４．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

わかりやすいケーススタディの進め方：照林社

地域・在宅看護論の考え方

近年の社会変化に伴い、地域で暮らす人々の理解とそこで行われる看護に対する必要性が高まっており、従来の在宅看護論に加えこれまで以上に地域での看護を意識した「地域・在宅看護論」が設定された。

地域・在宅看護は、地域で暮らしている個人・家族を看護の対象とし、暮らしを継続的・包括的に捉える視点を持ち、多職種と協働しながら効果的な看護を実践できることを目的としている。そのため、「地域・在宅看護論」では、地域で暮らす人々の多様なニーズに対応する看護のあり方を学ぶ。地域で健康状態の回復・維持・増進を目指し、多職種連携・チームでの協働のもと暮らすことを支え、暮らしの質の維持・向上を支援する看護のあり方を学ぶ。

臨地実習では、地域・在宅で療養・暮らす対象とその家族を理解し、地域・在宅で暮らすために必要な看護を学ぶ。

＜地域・在宅看護論の構成＞

地域・在宅看護概論Ⅰ〔1単位：15時間〕 ―― 人々の暮らしと地域・在宅看護、暮らしの基盤としての地域の理解

地域・在宅看護概論Ⅱ〔1単位：30時間〕 ―― 地域・在宅看護の対象、地域における暮らしを支える看護地域・在宅看護にかかわる制度とその活用

地域・在宅看護論Ⅰ〔1単位：15時間〕 ―― 多職種連携・チームでの協働
― 地域・在宅看護マネジメント

地域・在宅看護論Ⅱ〔1単位：15時間〕 ―― 家族の理解、地域における家族への看護

地域・在宅看護論Ⅲ〔1単位：30時間〕 ―― 暮らしを支える看護技術

地域・在宅看護論Ⅳ〔1単位：15時間〕 ―― 地域・在宅看護過程の展開

臨地実習〔2単位：90時間〕 ―― 地域・在宅看護論実習a（市役所）
― 地域・在宅看護論実習b（訪問看護ステーション）

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護概論Ⅰ	1（15）	1年前期	講義・演習
担当教員	大塚里美（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

看護の対象は、地域で暮らす人々であり、療養の場の拡大により看護を提供する場も拡大している。少子・超高齢社会が急激に進むなかで、従来の病院中心ではなく住み慣れた地域・在宅で暮らす人々を支える役割が看護に求められている。

そこで地域・在宅看護概論では、まず地域・在宅で生活する人々とその暮らしや、地域について理解を深める。

2．到達目標

1）地域に住む人々とその暮らしについて理解することができる。
2）地域の特徴を知ることができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）人々の暮らしと地域・在宅看護
3～4	2）暮らしの基盤としての地域の理解
5～6	3）演習1：暮らしを理解する　　演習2：地域を理解する
7～8	4）演習1、2の発表とまとめ
時間外	評価

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］　地域・在宅看護の基盤：医学書院

参考文献

基礎からわかる地域・在宅看護論：編著　池西静江：照林社

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護概論Ⅱ	1（30）	1年後期	講義
担当教員	戸崎美穂（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

地域・在宅看護の対象の特徴を理解し、対象者の暮らしを支える看護の必要性・目的・機能・役割を知り、地域・在宅看護のあり方について考えることができる。

2．到達目標

1）地域・在宅看護が必要とされる背景と地域・在宅看護の概念について理解する。
2）地域における暮らしを支える看護を理解する。
3）地域・在宅看護における対象者のライフステージに応じた看護を理解する。
4）地域・在宅看護実践の場と連携について理解する。
5）地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）地域看護活動における地域・在宅看護の位置付け 現在の社会背景、在宅看護の概念 地域・在宅看護の役割
3～4	2）地域・在宅看護の対象 クリティカルシンキングを利用した地域・在宅看護 地域包括ケアシステムと共生社会
5～7	3）地域における暮らしを支える看護 広がる看護の対象と提供方法 地域・在宅看護におけるライフステージに応じた看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策
8～10	4）地域・在宅看護実践の場と連携 おもな地域・在宅看護実践の場 地域・在宅における多職種連携
11～14	5）地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 介護保険・医療保険制度/訪問看護制度 地域保健にかかわる法制度/高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度/権利保障など
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護論［1］地域･在宅看護の基盤：医学書院
系統看護学講座　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度③：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会
医療福祉総合ガイドブック：編集　NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会：医学書院

参考文献

基礎からわかる地域・在宅看護論：編著　池西静江：照林社

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護論Ⅰ	1（15）	2年前期	講義・演習
担当教員	岡川良恵（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

療養者および家族の暮らしを支援するために必要な保健医療福祉活動および多職種連携とチームでの協働について理解する。

2．到達目標

1）多職種連携・チームでの協働の必要性について理解できる。
2）多職種連携・チームでの協働における看護師の役割について考えることができる。
3）療養者および家族の暮らしを支える訪問看護について理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）多職種連携・チームでの協働 医療福祉専門職との連携/医療福祉機関以外との連携 多職種との連携・ワンチームでの協働/学校・企業との連携
3～4	2）地域・在宅マネジメント 多様な場における地域・在宅マネジメント
5	3）退院支援の実際 退院支援看護師からの講義
6	4）退院支援の実際 訪問看護師からの講義
7	5）地域・在宅看護の活動例
8	6）多職種連携における看護師の役割 訪問看護について
時間外	評価

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］地域・在宅看護の基盤：医学書院
系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］地域・在宅看護の実践：医学書院
医療福祉総合ガイドブック：編集　NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護論Ⅱ	1（15）	2年前期	講義
担当教員	井手知恵子			

1．授業概要

地域・在宅看護の対象は療養者と家族である。地域・在宅看護では療養者と家族が暮らす場で看護を実践するため、ともに生きることを支援していく必要がある。

この講義では、家族の理解と地域の中で支援していく看護について学ぶ。

2．到達目標

1）療養者を介護する家族の理解と支援について理解することができる。

2）事例を通し、家族に対する看護のあり方について考えることができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）地域・在宅看護の対象者、家族の理解
2	2）地域に暮らす対象者の理解と看護
3	3）地域における家族への看護
4～7	4）家族看護の実際
8	5）テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア：メディカ出版

系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］地域・在宅看護の基盤：医学書院

参考文献

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護論Ⅲ	1（30）	2年後期	講義・演習
担当教員	岡川良恵（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

地域・在宅療養の場合は対象や家族の生活環境のリズムを変えることなく日常生活を可能とし、日常生活動作の拡大をはかる。特に、家庭内で使い慣れた物品を利用して、療養生活あるいは機能訓練などについて看護あるいは介護の方法を指導することが重要である。

この講義では、地域・在宅という看護の場や特徴を理解し、対象者の状況、ニーズに応じた援助方法を学ぶ。

2．到達目標

1）地域・在宅看護とは何かイメージでき、看護師の役割が理解できる。
2）地域・在宅看護と施設内看護の違いを知る。
3）地域・在宅看護の療養者の特徴を知り、その援助方法を知る。
4）地域・在宅療養を支える看護について、考えることができる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）暮らしの場で看護をするための心構え
2	2）地域・在宅看護における対象者の安全を守る看護
3	3）訪問看護とは、訪問看護の役割
4～9	4）地域における暮らしを支える看護実践 エンドオブライフケアに関する地域・在宅看護技術
10～11	5）演習1　暮らしを支える看護実践
12～13	演習1の発表とまとめ
14	6）多様な対象者に多彩な看護ケアを行う活動
15	7）テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験および演習の評価に基づき行う。終講試験を70点、演習評価を30点として、100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］地域・在宅看護の実践：医学書院

参考文献

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護論Ⅳ	1（15）	2年後期	講義・演習
担当教員	戸崎美穂（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

地域・在宅看護の目的は、多様な生活歴と価値観とを持った人々が対象となるため、療養者や介護者（家族）がどのようなコミュニケーションパターンをとるのかを理解し、療養者の「住み慣れた自宅で自分らしい生活を大事にして暮らしていきたい」というニードを援助することにおかれる。

そこで、この講義では地域・在宅看護の看護過程の特徴と実践、評価の視点を事例を通して学ぶことを目的とする。

2．到達目標

1）地域・在宅看護の目的を達成させるための看護過程を学び、情報を統合・判断・分析し問題解決を行うプロセスを理解する。

2）個々の療養者の特性を看護者がどのようにとらえ、どのようにとらえ、どのように具体的援助に結びつけていくかを事例を通して学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）地域・在宅看護の展開と特徴
3～4	2）地域・在宅看護の療養時期別の看護
5～8	3）看護過程の展開
時間外	評価

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分類し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］地域・在宅看護の実践：医学書院

参考文献

成人看護学の考え方

成人看護学の対象となる「成人」とは、青年期から向老期までの約50年間という長期にわたり、職場や家庭、地域社会の中心的な存在として、社会を支える大きな役割を担っている。成人期の対象はストレスにさらされ、生活習慣病など様々な健康問題を発症しやすい年代である。そこで成人看護学では、成人を対象に、その人にとって最適な健康保持・増進するための看護を学ぶ。

成人看護学概論では成人期にある人々の特徴や成人期に起こりやすい健康障害、健康保持･増進させるための援助を概論として学ぶ。さらに、成人保健と成人に対する保健･医療･福祉対策についても学ぶ。

成人看護学Ⅰは、様々な健康状態にある成人期の対象の理解を深め、経過に応じた看護を学ぶ。各健康段階の定義、対象の特徴、看護の特徴、健康段階における特有の看護技術の演習も含めて学ぶ。成人看護学Ⅱ～Ⅴでは健康障害を持つ患者の看護を系統別且つ経過別に組み立て特有の症状・検査・治療・処置・看護を学ぶ。成人看護学Ⅴでは、周手術期の事例を用いて、看護過程を学ぶ。

臨地実習では、高齢者を受け持つ機会が多いため、成人看護学実習と老年看護学実習を一つのまとまりとして科目を設定した。成人・老年護学実習Ⅰで介護老人保健施設およびグループホームでの実習で高齢者の特徴を学ぶ。成人・老年護学実習Ⅱで慢性期実習、成人・老年護学実習Ⅲで周手術期実習を行う。周手術期実習で急性期の状態から回復する過程を学ぶ。成人・老年護学実習Ⅳで終末期実習を行う。

＜成人看護学の構成＞

成人看護学概論 [１単位：30時間]
- 成人の特徴および看護
- 成人の保健・医療・福祉

成人看護学Ⅰ [１単位：30時間]
- 急性期にある患者の看護
- 周手術期にある患者の看護
- 慢性期にある患者の看護
- 回復期･リハビリテーション期にある患者の看護
- 終末期にある患者の看護

成人看護学Ⅱ [１単位：30時間]
- 消化器系の疾患のある患者の看護（22時間）
- 内分泌系の疾患のある患者の看護（8時間）

成人看護学Ⅲ [１単位：30時間]
- 循環器系の疾患のある患者の看護（14時間）
- 腎･泌尿器系の疾患のある患者の看護（10時間）
- 血液･造血器系の疾患のある患者の看護（6時間）

成人看護学Ⅳ [１単位：30時間]
- 呼吸器系の疾患のある患者の看護（12時間）
- 運動器系の疾患のある患者の看護（10時間）
- アレルギー、膠原病、感染症のある患者の看護（8時間）

成人看護学Ⅴ [１単位：30時間]
- 脳･神経系の疾患のある患者の看護（12時間）
- 女性生殖器系の疾患のある患者の看護（4時間）
- 周手術期患者の看護過程（14時間）

臨地実習 [10単位：450時間]
- 成人・老年看護学実習Ⅰ（a介護老人保健施設、bグループホーム）２単位　90時間
- 成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期実習）２単位　90時間
- 成人・老年看護学実習Ⅲ（周手術期実習）３単位　135時間
- 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期実習）３単位　135時間

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人看護学概論	1（30）	1年後期	講義
担当教員	芦刈順子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

成人期にある対象の特徴を理解し成人看護の機能と役割を理解する。また、成人期にある人々の保健の動向および対策を知る。

2．到達目標

1）成人の特徴を発達段階や役割機能から理解し、成人期にある対象の課題に気付くことができる。
2）成人の発達段階が健康レベルにどのように影響しているか理解する。
3）成人看護に関連する基礎理論を理解する。
4）成人期の対象の健康・不健康の問題と対処行動を理解し、看護の役割と機能について理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）成人の特徴
4～6	2）成人期の健康障害
7～9	3）健康維持のための援助
10～12	4）成人保健
13～14	5）成人に対する保健福祉医療対策
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［1］　成人看護学総論：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

参考文献

厚生白書（厚生労働省監修）

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人看護学Ⅰ	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	急性期・慢性期	藤田美鈴（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	回復期・ リハビリテーション期	藤田美鈴（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	周手術期	藤田美鈴（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	終末期	首藤真美（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

様々な健康段階にある成人期の患者の特徴および看護の特徴を知る。

2．到達目標

1）急性期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。
2）慢性期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。
3）回復期・リハビリテーション期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。
4）周手術期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。
5）終末期にある成人期の患者および家族の特徴、看護の特徴・看護活動が理解できる。

3.授業計画

＜急性期・慢性期＞　8時間

時間	内　　容
1～2	1）急性期にある患者の看護 ①急性期とは ②急性期にある人と家族の特徴 ③急性期看護の特徴 ④急性期にある人への看護
3～4	2）慢性期にある患者の看護 ①慢性期とは、慢性期疾患とは ②慢性期にある人と家族の特徴 ③慢性期看護の特徴 ④慢性期にある人への看護
時間外	テスト（50点）

＜回復期・リハビリテーション期＞　8時間

時間	内　　容
1～3	1）回復期・リハビリテーション期にある患者の看護 ①回復期とは、リハビリテーション期とは ②リハビリテーション期にある人と家族の特徴 ③リハビリテーション期看護の特徴 ④リハビリテーション期にある人への看護
4	演習：ベッドサイドリハビリテーション（ＳＬＥ、セッティング等） 呼吸理学療法（体位ドレナージ、スクイージング等）
時間外	テスト（50点）

＜周手術期＞　８時間

時間	内　　容
１～４	１）周手術期にある患者の看護 ①周手術期とは ②周手術期にある人と家族の特徴 ③周手術期看護の特徴 ④周手術期にある人への看護
時間外	テスト（50点）

＜終末期＞　６時間

時間	内　　容
１～３	１）終末期にある患者の看護 ①終末期とは ②終末期にある人と家族の特徴 ③終末期看護の特徴 ④終末期にある人への看護 ⑤死終のケア
時間外	テスト（50点）

※症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年　経過別、疾患別看護　教授内容マトリックス」参照。

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

①共通

系統看護学講座　専門分野 基礎看護学［４］ 臨床看護総論：医学書院

系統看護学講座　専門分野 成人看護学［１］成人看護学 ：医学書院

②回復期・リハビリテーション期

系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護：医学書院

③周手術期

よくわかる周手術期看護：学研

④終末期看護

系統看護学講座　別巻　緩和ケア：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人看護学Ⅱ	1（30）	2年前期	講義

担当教員		
	消化器系の疾患のある患者の看護	中田清秀（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
		神田真理（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
		首藤真美（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	内分泌系疾患のある患者の看護	藤谷悦子（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

消化器系・内分泌系の疾患のある患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状･検査･治療に伴う看護を学ぶ。

2．到達目標

1）疾患のある患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。
2）疾患のある患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。
3）疾患のある患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3．授業計画

＜消化器系の疾患のある患者の看護＞　22時間

回数	内　　容
1	1）胃・十二指腸潰瘍患者の看護
2	2）イレウス患者の看護
3	3）食道がん患者の看護
4	4）胆石症患者の看護
5～6	5）胃がん患者の看護
7～8	6）慢性肝炎・肝硬変患者の看護
9～10	7）大腸がん患者の看護（デモンストレーション：ストーマケア）
11	テスト（100点）・まとめ

＜内分泌系の疾患のある患者の看護＞　8時間

回数	内　　容
1	1）甲状腺機能亢進症患者の看護
2	2）糖尿病患者の看護
3	3）痛風・高脂血症・メタボリック症候群患者の看護
4	デモンストレーション：自己血糖検査
時間外	テスト（100点）

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［5］　消化器 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学［6］　内分泌・代謝： 医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人看護学Ⅲ	1（30）	2年前期	講義

担当教員		
	循環器系の疾患のある患者の看護	安東定徳（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	腎･泌尿器系の疾患のある患者の看護	中田清秀（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	血液・造血器系の疾患のある患者の看護	三浦麻李（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

循環器系・腎泌尿器系・血液造血器系の疾患のある患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状･検査･治療に伴う看護を学ぶ。

2．到達目標

1）疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。
2）疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。
3）疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3．授業計画

＜循環器系の疾患のある患者の看護＞　14時間

回数	内　　容
1	1）急性循環機能障害患者の看護
2～3	2）慢性心不全患者の看護
4～5	3）狭心症・不整脈患者の看護
6	4）心筋梗塞患者の看護　デモンストレーション：12誘導心電図(ﾌｨｼﾞｺ)
7	テスト（100点）・まとめ

＜腎・泌尿器系の疾患のある患者の看護＞　10時間

回数	内　　容
1	1）急性腎不全患者の看護
2	2）尿路結石患者の看護
3	3）膀胱腫瘍患者の看護
4～5	4）慢性腎不全患者の看護
時間外	テスト（100点）

＜血液・造血器系の疾患のある患者の看護＞　6時間

回数	内　　容
1	1）白血病患者の看護 2）悪性リンパ腫患者の看護
2	3）多発性骨髄腫患者の看護
3	4）ＤＩＣ患者の看護
時間外	テスト（50点）

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人･老年 経過別･疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［3］　循環器： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学［8］　腎・泌尿器： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学［4］　血液・造血器： 医学書院

	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
専門分野	成人看護学Ⅳ	1（30）	2年前期	講義

担当教員	呼吸器系の疾患のある患者の看護	河野翔平（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	運動器系の疾患のある患者の看護	神﨑雄太（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	アレルギー・膠原病・感染症のある患者の看護	鎌田善子（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1.授業概要

呼吸器系・運動器系・免疫系の疾患、膠原病、感染症のある患者に対し、それぞれの経過に応じた看護および疾患に特有の症状･検査･治療に伴う看護を学ぶ。

2. 到達目標

1）疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。
2）疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。
3）疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

3. 授業計画

＜呼吸器系の疾患のある患者の看護＞　12時間

回数	内　　容
1～2	1）急性呼吸機能不全患者の看護 （気管支喘息、自然気胸、胸部外傷、過換気症候群、肺血栓塞栓症）
3～4	2）慢性呼吸機能不全患者の看護 （ＣＯＰＤ、慢性気管支炎、睡眠時無呼吸症候群）
5	3）肺癌末期患者の看護
6	テスト（100点）・まとめ

＜運動器系の疾患のある患者の看護＞　10時間

回数	内　　容
1	1）変形性膝関節症患者の看護
2～3	2）骨折患者の看護
4	3）脊髄損傷患者の看護
5	4）四肢切断患者の看護
時間外	テスト（100点）

＜アレルギー・膠原病・感染症のある患者の看護＞　8時間

回数	内　　容
1	1）アレルギー患者の看護
2～3	2）膠原病・膠原病類縁疾患患者の看護
4	3）感染症患者の看護
時間外	テスト（100点）

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人･老年 経過別･疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5. テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［2］ 呼吸器： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学［10］ 運動器 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学［11］ アレルギー 膠原病 感染症 ： 医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人看護学Ⅴ	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	脳・神経系の疾患のある患者の看護	山崎任淑（実務経験者） 医療機関において看護師としての経験がある。
	女性生殖器系の疾患のある患者の看護	井上典枝（実務経験者） 医療機関において看護師・助産師としての経験がある。
	看護過程	右田良恵　他（実務経験者） 医療機関において看護師としての経験がある

1.授業概要

＜脳・神経系の疾患のある患者の看護＞　＜女性生殖器系の疾患のある患者の看護＞

脳・神経系、女性生殖器系の疾患を持つ患者に対し、それぞれの経過に応じた看護及び疾患に特有の症状・検査・治療に伴う看護を学ぶ。

＜看護過程＞

成人期の特徴をふまえ、周手術期にある対象の看護過程の展開方法を学ぶ。

2. 到達目標

＜脳・神経系の疾患のある患者の看護＞　＜女性生殖器系の疾患を持つ患者の看護＞

1）疾患を持つ患者に対し、それぞれの健康障害および経過に応じた看護を理解できる。
2）疾患を持つ患者に対し、それぞれの症状緩和のための看護が理解できる。
3）疾患を持つ患者に対し、その治療や検査に伴う看護が理解できる。

＜看護過程＞

1）手術・麻酔がおよぼす影響をふまえたアセスメントの視点がわかる。
2）手術前・手術後の看護の特徴をふまえた看護計画が立案できる。
3）対象の経時的変化に沿って計画を修正する必要性と方法がわかる。

3. 授業計画

＜脳・神経系の疾患のある患者の看護＞　12時間

回数	内　　容
1	1）頭部外傷患者の看護
2～3	2）くも膜下出血患者の看護
4	3）脳腫瘍患者の看護
5	4）脳梗塞患者の看護
6	テスト（100点）・まとめ

＜女性生殖器系の疾患のある患者の看護＞　4時間

回数	内　　容
1	1）乳がんの病態生理、乳がん患者の看護
2	2）子宮がん患者の看護
時間外	テスト（50点）

＜看護過程＞　14時間

回数	内　　容
１～７	１）ペーパーエージェントを用いて周手術期の看護過程の展開 ①オリエンテーション ②事例紹介 ③情報収集、アセスメントの視点 ④全体像の捉え方 ⑤看護計画立案の要点 ⑥発表、まとめ
時間外	評価（100点）

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

４.評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［７］　脳神経 ： 医学書院

系統看護学講座　専門分野　成人看護学［９］　女性生殖器： 医学書院

参考文献

（看護過程のみ）

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論：医学書院

よくわかる周手術期看護：学研

疾患別 看護過程の展開 ： 学研

看護に活かす検査値の読み方・考え方：総合医学社

老年看護学の考え方

老年期は、加齢に伴い活力や予備能力が低下する時期であり、健康上の問題を引きおこしやすい。一旦健康上の問題を引きおこすと日常生活行動に支障をきたしやすく、回復が困難な状態となり看護の需要も高くなる。そこで老年看護学では、高齢者が築いてきた人生観や価値観を尊重し、その人らしく自立した生活を営み、人生をまっとうできるように支援するための実践的な看護を学ぶ。

老年看護学概論では、健康な高齢者の特徴や加齢に伴う身体的･精神的･社会的変化を看護の視点から学び、高齢者の生活に着眼して保健･医療･福祉について理解する。

老年看護学Ⅰでは、特に生活機能の観点から加齢に伴う変化に対する基本的な援助技術を学ぶ。老年看護学Ⅱでは、健康障害のある高齢者および家族の特徴を知り、健康障害時の看護やそれぞれの健康段階に応じた看護について学ぶ。老年看護学Ⅲでは、実習で高齢者を受け持つことが多いことから、老年看護学での看護過程を演習という形で行い、疾患のある高齢者の看護過程を学ぶ。

臨地実習では、高齢者を受け持つ機会が多いため、成人看護学実習と老年看護学実習を一つのまとまりとして科目を設定した。成人・老年護学実習Ⅰで介護老人保健施設およびグループホームでの実習で高齢者の特徴を学ぶ。成人・老年護学実習Ⅱで慢性期実習、成人・老年護学実習Ⅲで周手術期実習を行う。周手術期実習で急性期の状態から回復する過程を学ぶ。成人・老年護学実習Ⅳで終末期実習を行う。

＜老年看護学の構成＞

老年看護学概論 [１単位：15時間]
- 高齢者の特徴および看護
- 高齢者の保健・医療・福祉

老年看護学Ⅰ [１単位：30時間]
- 高齢者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術
- 日常生活援助技術

老年看護学Ⅱ [１単位：30時間]
- 疾患のある高齢者の看護
- 治療･処置に伴う看護

老年看護学Ⅲ [１単位：15時間]
- 看護過程

臨地実習 [10単位：450時間]
- 成人・老年看護学実習Ⅰ（ａ介護老人保健施設、ｂグループホーム）　２単位　90時間
- 成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期実習）　２単位　90時間
- 成人・老年看護学実習Ⅲ（周手術期実習）　３単位　135時間
- 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期実習）　３単位　135時間

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	老年看護学概論	1（15）	1年後期	講義
担当教員	神田智恵子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

老年期の人々の健康に関する事象と日常生活および地域システムなどから多角的にとらえ、さらに身体面・心理面・社会面から総合的に考える視点を明確にする。

2．到達目標

1）老年期にある個人および集団の健康状態を生活行動との関連で理解する。
2）老年期にある対象の加齢や生活歴に伴う生理現象と健康破綻との関連について理解する。
3）老年期にある対象の人生観・価値観と日常生活行動を尊重したアプローチについて理解する。
4）老年期にある対象の保健・医療・福祉のシステムについて理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1	老年看護の特徴
2	高齢者の理解　高齢社会の理解
3	高齢者と家族
4～5	健康段階に応じた看護の特徴
6～7	高齢者の保健・医療・福祉
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

系統看護学講座　専門分野　老年看護学：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	老年看護学Ⅰ	1（30）	1年後期	講義・演習
担当教員	藤田美鈴（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

高齢者におこりやすい症状や健康問題を理解し、高齢者を援助するときに必要な基本的技術を身につける。

2．到達目標

1）高齢者におこりやすい症状や健康問題を理解できる。
2）高齢者を援助するときに必要な基本的技術を身につける。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）コミュニケーション障がいへの援助
2	2）認知症・認知障害への援助
3	3）基本動作の援助 4）転倒・転落予防
4	5）廃用症候群の予防
5	6）排泄の援助
6	7）休息・睡眠への援助 8）環境整備、事故防止
7	9）栄養・食事
8	10）口腔ケア
9	11）誤嚥・窒息の予防
10	12）脱水予防
11	13）スキンケア、褥瘡ケア
12	15）高齢者体験
13～14	体験演習： 口腔ケア、清潔の援助、寝衣交換、車椅子移乗、歩行介助、排泄の援助（ポータブルトイレ等）
15	テスト・まとめ

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　老年看護学：医学書院
系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	老年看護学Ⅱ	1（30）	2年前期	講義
担当教員	和田典子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

健康障害時の高齢者の特徴を理解し、援助について学ぶ。また、高齢者が罹患しやすい疾患に対し、その看護を学ぶ。

2．到達目標

1）健康障害のある高齢者の病態が身体的･心理的･社会的に及ぼす影響について理解できる。
2）健康障害のある高齢者が治療･処置を受けるときの援助が理解できる。
3）高齢者におこりやすい疾患について看護の特徴を理解する。

4．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）疾患のある高齢者の特徴
3～8	2）治療・処置に伴う看護 ①入院生活への援助 ②検査を受ける高齢者への援助 ③薬物療法を受ける高齢者への援助 ④手術を受ける高齢者への援助
9～14	3）疾患を持つ高齢者の看護 ・圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、パーキンソン病 ・疥癬、老人性掻痒症、老人性肺炎、前立腺肥大症、認知症
15	テスト・まとめ

※ 症状・治療・処置・検査に伴う看護は「成人・老年 経過別・疾患別看護 教育内容マトリックス」参照

5．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

6．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　老年看護学：医学書院
系統看護学講座　専門分野　老年看護 病態・疾患論：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	老年看護学Ⅲ	1（15）	2年前期	演習
担当教員	藤田美鈴 他（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

事例をもとに老年期にある対象の看護過程展開のプロセスを理解する。

2．到達目標

1）一連の看護過程の展開の方法が理解できる。
2）老年期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえた情報収集・アセスメントの視点がわかる。
3）老年期にある人の生活上の問題と心理・社会的問題を整理・関連づけ、全体像を描く視点がわかる。
4）老年期にある人の個別性をふまえた看護計画を立案できる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～8	1）ペーパーペイシェントを用いて老年期の看護過程の展開 ①オリエンテーション ②事例紹介 ③情報収集、アセスメントの視点 ④全体像の捉え方 ⑤看護計画立案の要点 ⑥発表、まとめ
時間外	評価（100点）

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

参考文献

系統看護学講座　専門分野　老年看護学：医学書院
系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論：医学書院
疾患別 看護過程の展開 ： 学研
看護に活かす検査値の読み方・考え方：総合医学社

小児看護学の考え方

小児看護の対象である子どもは、成長・発達途上にある存在である。そして、子どもが健やかな成長・発達を遂げることは、病気や障がいがあっても“子どもの権利”として保障されるものである。そのため小児看護では、子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの権利が保障される看護を考え実践することが求められる。

また、少子超高齢社会や核家族化のなか、親の育児不安や児童虐待、さらには子どもの貧困などが社会問題となり、子どもが育つ現代社会において、子どもの健康や成長・発達が脅かされることがある。このような状況下において、子どもの健康を守り、健やかな成長・発達を支える社会の役割は大きい。現代社会において、生殖医療や小児医療の発展、さらに地域包括ケアの充実に伴い、病気や障がいのある子どもと家族が地域で健やかに暮らすための環境が整えられている。そのため、保健・医療・福祉・教育の連携と協働における看護職の役割を理解することが必要である。

そこで小児看護学では、子どもの成長・発達、家族と社会の状況を理解し、健やかな成長・発達を保障する支援を学ぶ。また、地域包括ケアの充実のもと、子どもと家族に関わる多職種の連携と協働の中での看護の役割を学ぶことを目的とする。

小児看護学概論では、子どもの成長・発達の特徴と看護、小児看護の特徴を学ぶ。小児看護学Ⅰで小児疾患を理解し、小児看護学Ⅱで病気や障がいのある子どもと家族の看護を学ぶ。小児看護学Ⅲでは、子どもの看護技術と看護過程の展開について学ぶ。

臨地実習では、小児の成長発達を学んだうえで、疾病のある小児、障害のある小児の看護を学ぶ。

＜小児看護学の構成＞

- 小児看護学概論［1単位：30時間］
  - 子どもの成長・発達の特徴と看護
  - 小児看護の特徴
- 小児看護学Ⅰ［1単位：15時間］
  - 小児疾患の理解
- 小児看護学Ⅱ[1単位：30時間]
  - 病気や障がいのある子どもと家族の看護
- 小児看護学Ⅲ[1単位：30時間]
  - 子どもの看護技術
  - 子どもと家族の看護過程
- 臨地実習［2単位：90時間)］
  - 小児看護学実習a（子どもの教育・保育施設実習）
  - 小児看護学実習b（障がい児・者施設実習）
  - 小児看護学実習c（小児の外来看護実習）

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	小児看護学概論	1（30）	1年後期	講義
担当教員	佐藤洋子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

健康概念、生活概念を根底に置き、看護の対象である子どもと家族を理解し、子どもの権利を保障した健やかな成長・発達への支援を学ぶ。さらに、小児を取り巻く社会環境や人的環境を理解し、小児の社会病理における問題と支援についても認識を深める。

2．到達目標

1）小児看護の対象と役割を理解する
2）子どもと家族の権利を守る看護のあり方を理解する。
3）子どもの成長・発達を理解し、健やかな成長・発達を助ける支援を理解する。
4）子どもと家族を取り巻く環境と健康問題、社会的支援を理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	1）小児看護の特徴と理念 小児看護における倫理
4～6	2）子どもの成長・発達と評価
7～9	3）子どもの養育と看護
10～14	4）子どもと家族を取り巻く社会の現状と施策
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評価不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院
国民衛生の動向：厚生労働統計協会
看護六法

参考文献

新体系看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論・小児保健：メヂカルフレンド社
小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　第8版（筒井真優美）：日総研
日本子ども資料年鑑：KTC中央出版
小児心理学（馬場一雄）：へるす出版
乳幼児健診マニュアル　第6版：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	小児看護学Ⅰ	1（15）	2年前期	講義
担当教員	別府幹庸（実務経験者）　医療機関において医師としての経験がある。			

1. 授業概要

小児の成長・発達を妨げる因子の一つとして小児の疾患を捉え、特徴的な疾患について正常な生理機能の特徴と対比しながら病態生理・症状・治療・検査について理解する。

2. 到達目標

1）小児疾患を小児の成長・発達の特徴と対比しながら理解することができる。
2）小児の代表的な疾患について、病態生理・症状・治療・検査を理解する。

3. 授業計画

回数	内　　容
1	1）1染色体異常・体内環境による先天異常　新生児の疾患　代謝性疾患 主な疾患：ダウン症候群、呼吸窮迫症候群
2	2）内分泌疾患　免疫・アレルギー・リウマチ性疾患　感染症 主な疾患：1型糖尿病、気管支喘息、食物アレルギー
3	3）呼吸器疾患　循環器疾患　消化器疾患 主な疾患：肺炎、先天性心疾患、唇裂・口蓋裂、鎖肛、腸重積症
4	4）血液・造血器疾患　悪性新生物　腎・泌尿器および生殖器系疾患 主な疾患：白血病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群
5	5）神経疾患　運動器疾患 主な疾患：脳性麻痺、骨折
6	6）皮膚疾患　眼疾患　耳鼻咽喉疾患 主な疾患：アトピー性皮膚炎、斜視、中耳炎
7	7）精神疾患　事故・外傷 主な疾患：神経症、発達障害、熱中症
8	テスト

4. 評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評価不能とし、Fで表す。

5. テキスト･参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　小児看護学［2］ 小児臨床看護各論：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	小児看護学Ⅱ	1（30）	2年前期	講義
担当教員	戸崎美穂（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

子どもと家族が病気や入院により受ける影響を発達段階の特徴を踏まえて理解し、あらゆる対象の多様なニーズに答えられるよう、状況に応じた看護の役割を小児看護の基礎として学ぶ。

2．到達目標

1）子どもの病気・入院による影響を理解し、子どもと家族に対する看護の役割を理解する。
2）子どもの発達段階の特徴に応じた看護を理解する。
3）様々な状況に応じた子どもと家族の看護を理解する。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）病気や障がいのある子どもと家族の理解
3	2）発達段階に応じた子どもと家族の看護
4～6	3）健康の段階に応じた子どもと家族の看護
7～8	4）症状のある子どもの看護
9	5）在宅における子どもと家族の看護
10～11	6）障がいのある子どもと家族の看護
12	7）災害時の子どもと家族の看護
13	8）外来における子どもと家族の看護
14	9）子どもの虐待と看護
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評価不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院
系統看護学講座　専門分野　小児看護学［2］小児臨床看護各論　：医学書院

参考文献

新体系看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論・小児保健：メヂカルフレンド社
新体系看護学全書　小児看護学②　健康障害を持つ小児の看護：メヂカルフレンド社
小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　第8版（筒井真優美）：日総研
小児疾患生活指導マニュアル：南江堂
子どもの外来看護（及川郁子）：へるす出版
ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護：へるす出版
子どものフィジカルアセスメント：金原出版

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	小児看護学Ⅲ	1（30）	2年後期	講義・演習
担当教員	佐藤洋子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

子どもの発達段階の特徴を捉え、グループワークを通して具体的看護を考え、シミュレーション教育において、よりよい看護を考える。さらに小児看護技術では、正確で安全な技術を学ぶとともに、子どもの権利を保障する援助として、プレパレーションを通して子どもの看護の特徴を学ぶ。

2．到達目標

1）子どもの発達段階、健康の段階、症状に対する看護を統合し、家族を含めた具体的看護を考える。
2）ロールプレイを通して援助を実施し、子どもと家族の反応を観察し、よりよい看護を考える。
3）子どもの特徴を捉え、安全で正確な小児看護技術を学ぶ。
4）プレパレーションを通して、子どもと家族の権利を保障し、子どもが主体的に治療や処置に参加できるような援助を考え実施する。

3．授業計画

回数	内　　容	方　法
1～3	1）小児看護技術①（概要）	講義
4～5	2）小児看護技術②（演習） バイタルサイン測定・身体計測	演習 グループワーク
6～7	3）事例の発達段階、健康の段階、症状に応じた看護計画立案	グループワーク
8～9	4）看護計画の発表と意見交換、修正 プレパレーションの具体的計画	グループワーク
10～13	5）看護計画（プレパレーションを含む）実施 場面を決めてロールプレイ	演習 グループワーク
14	6）振り返り	グループワーク
15	テスト・まとめ	

4．評価方法

終講試験および評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評価不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院
系統看護学講座　専門分野　小児看護学［2］小児臨床看護各論：医学書院

参考文献

新体系看護学全書　小児看護学①　小児看護学概論・小児保健：メヂカルフレンド社
新体系看護学全書　小児看護学②　健康障害を持つ小児の看護：メヂカルフレンド社
小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　第8版（筒井真優美）：日総研
小児疾患生活指導マニュアル：南江堂
子どものフィジカルアセスメント：金原出版
写真でわかる小児看護技術：インターメディカ

母性看護学の考え方

母性看護は、妊産褥婦および新生児への看護に加え、次世代の健全育成を目指し、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とする。母性看護の対象は、女性と男性、子どもが生まれるあるいは乳幼児を育てる家族、その家族が生活する地域社会をも含むようになった。また、疾病の有無で健康を捉えるのではなく、人間は自己実現に向かって成長するというウェルネスの視点を持って母性看護を実践することが求められる。

母性看護学概論では、母性看護学の基盤となる概念について学ぶ。母性看護を必要とする対象の特徴や、対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深める。また、各種統計資料から幅広く把握して母性看護学の課題や役割を考える。

母性看護学Ⅰでは、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と異常について学ぶ。母性看護学Ⅱでは、妊娠期・分娩期における妊婦と胎児のアセスメントや看護について学ぶ。母性看護学Ⅲでは、産褥・新生児の看護について学ぶ。

臨地実習では、ライフサイクルにおける女性と新生児の健康を維持・増進するために必要な基本的知識と技術を習得し、自らの母性、父性をよりよく成長させる機会とする。

＜母性看護学の構成＞

- 母性看護学概論［１単位：15時間］
  - 母性看護の基本となる概念
  - リプロダクティブヘルスケア
  - 対象をとりまく社会の変遷と現状
  - 対象の理解、女性のライフステージ各期における看護
- 母性看護学Ⅰ［１単位：30時間］
  - 母性生理学
  - 母性病理学
- 母性看護学Ⅱ［１単位：30時間］
  - 妊娠期の看護
  - 分娩期の看護
- 母性看護学Ⅲ［1単位：30時間］
  - 産褥期･新生児の看護
  - 看護過程
- 臨地実習［２単位：60時間］
  - 母性看護学実習

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	母性看護学概論	1（15）	1年後期	講義
担当教員	岡川良恵（実務経験者）　医療機関において助産師としての経験がある。			

1．授業概要

母性看護は、母性と父性が尊い生命を創造し、健全な人間へと発達させるという重大な使命の遂行への援助を目的としている。この目的を達成するには母性、父性を正しく理解し尊重することを基本的な考え方とすることが必要とされる。母性看護学概論では、各年代の母性の特徴をとらえ母性としての機能が健全に発揮できるように、女性の一生を通じて働きかける看護活動であることを理解する。

小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期における特質と、それに相応した看護の在り方を考える。さらに、単に家庭のみにある母性でなく、勤労にたずさわる母性、都市・農村漁村の地域環境の影響をうける母性など、母性の生活形態や家族形態を考えながら現代社会における母性をめぐる問題や関係法規、保健活動についても認識を深めることを目的とする。

2．到達目標

1）母性各期の特徴と特質を理解することができる。
2）母性看護の沿革と現状、関連する組織と法律、保健の動向を理解することができる。
3）母性看護に必要な看護の考え方と方法が理解できる。
4）母性機能の発達を促す保健活動について理解できる。
5）現代社会における母性の問題に対する現状と対策について理解できる。

4．授業計画

回数	内　　容
1	1）母性の概念
2	2）母性看護の意義と役割
3	3）母性看護の変遷
4	4）母性各期の特徴と看護
5	5）母性に関する保健の動向と法律
6	6）母性看護における生命倫理
7	7）母性をめぐる社会問題と対策
8	テスト・まとめ

5．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野 母性看護学［1］母性看護学概論：医学書院
国民衛生の動向　：厚生労働統計協会

参考文献

母子保健の主な統計　：母子健康事業団
リプロダクティブ・ヘルス／ライツ　：メディカ出版
日本人の子産み・子育て　：メディカ出版

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	母性看護学Ⅰ	1（30）	2年前期	講義

担当教員		
	母性生理学	井上典枝（実務経験者）　医療機関において助産師としての経験がある。
	母性病理学	豊福一輝（実務経験者）　医療機関において医師としての経験がある。

1．授業概要

母性の特性を生理学的・病理学的に理解し、特に妊娠・分娩・産褥・新生児期の身体的特徴と経過、そのメカニズムを正常と異常を対比させながら学ぶ。

さらに、検査や診断・治療の知識を深めるとともに施設内分娩の普遍化にともなって重要性を増した妊婦の生活指導や胎児管理についても学ぶことを目的とする。

2．到達目標

1）人間の性と生殖の概念と意義について理解する。
2）妊婦の生理、胎児の発育と生理について理解する。
3）母体の生理的変化について理解する。
4）ハイリスク妊娠の定義と因子について理解する。
5）異常妊娠の病理と治療、保健指導について理解する。
6）分娩の経過と異常分娩の苦痛の緩和、母体および胎児の安全に対する対処について理解する。
7）産褥の身体的特徴と異常産褥について理解する。

3．授業計画

＜母性生理学＞　16時間

回数	内　　容
1	1）人間の性と生殖の概念と意義 2）妊娠の成立と正常妊娠
2～3	3）胎児の発育と生理
4～5	4）分娩の経過
6～7	5）産褥・新生児の生理学変化
8	テスト（100点）・まとめ

＜母性病理学＞　14時間

回数	内　　容
1	1）ハイリスク妊娠
2～3	2）異常妊娠の病理と治療、保健管理
4～5	3）異常分娩
6～7	4）産褥・新生児の異常
時間外	テスト（100点）

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］　母性看護学各論 ： 医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	母性看護学Ⅱ	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	妊娠期	徳丸昌子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	分娩期	井上典枝（実務経験者）　医療機関において助産師としての経験がある。

１．授業概要

<妊娠期>

妊娠を健康人の営む自然で生理的な現象としてとらえ、妊娠の身体的変化や胎児の成長発達における看護と保健指導や精神的変化と社会的サポートについて学ぶ。

<分娩期>

正常に経過する分娩期の母性心理や必要な援助、夫・家族との共同について考え、さらに、分娩期に考えられる代表的なハイリスク・異常とそれに対する援助の方法について理解することを目的とする。

２．到達目標

<妊娠期>

1）妊娠期の身体的・心理液・社会的特徴を理解できる。
2）妊娠における身体的変化や心理・社会的特性に対する看護を理解することができる。
3）妊娠における正常な経過やハイリスク・異常についての看護を理解することができる。
4）母性看護に必要な技術を実技を通して理解することができる。

<分娩期>

1）分娩期の身体的・心理液・社会的特徴を理解できる。
2）分娩期における身体的変化や心理・社会的特性に対する看護を理解することができる。
3）分娩期における正常な経過やハイリスク・異常についての看護を理解することができる。

３．授業計画

<妊娠期>　20時間

回数	内　　容
1～5	1）妊娠期の心理、社会的特性 2）妊娠期の母体および家族に対する援助 3）疾患のある妊婦と胎児の援助
6～7	演習：妊娠体操、呼吸法と補助呼吸、
8～9	演習：児心音聴取、 骨盤外計測、腹囲・子宮底測定レオポルド触診法
10	テスト（100点）・まとめ

<分娩期>　10時間

回数	内　　容
1～2	1）分娩期の心理、社会的特性
3～5	2）産婦と家族に関する援助 3）疾患のある産婦、胎児、新生児の援助
時間外	テスト（100点）

４．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５．テキスト・参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　専門分野　母性看護学［２］　母性看護学各論　：医療書院
パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護：照林社

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	母性看護学Ⅲ	1（30）	2年後期	講義・演習
担当教員	徳丸昌子（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

<産褥期・新生児>

褥婦の生理的変化と健康生活を理解し、産褥期に適した看護援助を学ぶとともに、母親となるための援助や家族・夫のサポートについて理解を深める。また、新生児看護の原則および、看護の役割を理解する。

<看護過程>

事例をもとに、看護過程の展開を学ぶ。

2．到達目標

<産褥期・新生児>

1）産褥期の身体的・心理液・社会的特徴を理解できる。
2）産褥期における身体的変化や心理・社会的特性に対する看護を理解することができる。
3）産褥期における正常な経過やハイリスク・異常についての看護を理解することができる。
4）新生児の特徴と生理的変化を理解し、児の健康な発達を援助することができる。
5）家族の役割の変化や家族の発達について考えることができる。

<看護過程>

1）母性における看護過程の展開がわかる。

3．授業計画

<産褥期・新生児>　20時間

回数	内　　容
1～2	1）産褥期の心理、社会的特徴
3～4	2）産褥と新生児、家族に関する援助
5～6	3）疾患のある褥婦と新生児の援助
7～9	演習：乳房マッサージ、授乳、悪露交換、産褥体操、退院指導、沐浴、保育器の取り扱い、出生直後の児の取り扱いと諸計測
10	テスト（100点）・まとめ

<看護過程>　10時間

回数	内　　容
1～5	1）ペーパーペイジェントを用いて母性各期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児）の看護過程の展開 ①オリエンテーション ②事例紹介 ③情報収集とアセスメントの視点
時間外	評価（100点）

4．評価方法

終講試験および評価表に基づき行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

<産褥期・新生児>

使用テキスト
系統看護学講座　専門分野　母性看護学［２］　母性看護学各論：医療書院
パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護：照林社

<看護過程>

使用テキスト
系統看護学講座　専門分野　母性看護学［２］　母性看護学各論：医療書院
パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護：照林社
ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程（太田操）：医歯薬出版株式会社

精神看護学の考え方

精神保健･医療･福祉をとりまく社会状況はめまぐるしく変化している。そこで、人間の精神機能が生活に及ぼす影響と精神障害者とその家族が直面する困難や不利益を理解し、地域や施設内を問わず適切な看護が展開できる能力を育成しなければならない。また、他職種との連携のもと、広い視野と倫理的配慮のうえで看護師の果たす役割を考えることもねらいとする。

精神保健では、精神的健康の保持･増進、精神的不健康の予防ならびに精神的疾病に至る諸問題について学ぶ。精神看護学概論では精神看護の基となる概念や史実を通じて、人間生活における精神看護の本質を理解する精神看護学Ⅰでは精神疾患の理解を深めるとともに治療モデルを学び、看護過程の展開の方法を学ぶ。精神看護学Ⅱでは精神障害のある患者の理解と患者に適した働きかけを学ぶ。

臨地実習では、精神障害のある患者を身体的・精神的・社会的に理解し、自己決定能力やセルフケア能力を考慮した看護を実践する基礎能力を学ぶ。

＜精神看護学の構成＞

精神保健
［１単位：15時間］
- 精神保健の歴史、概念
- 心の発達
- 心理・社会的発達
- 性をめぐる概念
- 性の健康と障害の概念
- クライシス（精神的危機）
- 学校における危機

精神看護学概論
［１単位：30時間］
- 精神看護の目的・目標
- 精神看護の歴史・課題
- 精神看護の機能と役割
- 援助論と患者理解の視
- 患者-看護師関係の成立要件と発達過程
- 看護過程

精神看護学Ⅰ
［１単位：30時間］
- 精神疾患の理解
- 精神症状と状態像の理解
- 主な精神科治療

精神看護学Ⅱ
［１単位：30時間］
- 援助方法

臨地実習
［２単位：90時間］
- 精神看護学実習

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	精 神 保 健	1 （15）	1年後期	講義
担当教員	西村　薫			

1．授業概要

精神保健では、人々の精神的健康の保持・増進、精神的不健康の予防ならびに精神的疾病にいたる諸問題について精神保健の立場から概説する。

2．到達目標

心理的社会的存在としての人間の精神のあり様について理解を深め、精神保健の基礎について学ぶ。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）精神保健の概念、歴史
2	2）心の発達
3	3）心理・社会的発達
4	4）性をめぐる概念
5	5）性の健康と障害の概念
6	6）クライシス（精神的危機）
7	7）学校における危機
8	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

精神看護学Ⅰ　精神保健学 ：ヌーベルヒロカワ

国民衛生の動向：厚生労働統計協会

参考文献

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔1〕精神看護の基礎 ： 医学書院

系統看護学講座　別巻12　精神保健福祉 ：医学書院

精神医療看護の歩み（宮内　充） ：頸草書房

ナースをサポートするケアのための心理学（古城和敬他）：北大路書房

精神看護学「精神保健」（太田保之・川崎千里編著）：医歯薬出版

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	精神看護学概論	1（30）	2年前期	講義・演習

担当教員		
	概論	渡部正樹（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。
	看護過程	髙野　唯（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜概論＞

人々の心の健康の保持・増進・障害に対する社会的背景や課題から精神看護の本質について考えさせ、援助の視点を明らかにできるようにする。

＜看護過程＞

事例をもとに、精神疾患のある患者の看護過程のプロセスを理解する。

2．到達目標

＜概論＞

1）精神看護の基礎的概念や史実を通して、精神看護の本質を理解する。
2）心の健康問題を援助するための枠組みについて学ぶ。
3）心のバリアフリーに向けて患者-看護師との相互成長を目指す人間関係のあり方について学ぶ。

＜看護過程＞

1）統合失調症患者の看護過程の展開の方法が理解できる。
①情報収集・アセスメントの視点がわかる。
②全体像の捉え方がわかる。
③看護問題の捉え方がわかる。
④看護計画立案のポイントがわかる。

3．授業計画

＜概論＞　16時間

回数	内　　容
1～7	1）精神看護の目的と目標 2）歴史からみる精神看護の課題 3）精神保健看護の機能と役割 4）援助論の枠組みと患者理解の視点 （ペプロー・オレムを中心に） 5）患者－看護師関係の成立要件と発達過程
8	テスト（100点）・まとめ

＜看護過程＞　14時間

回数	内　　容
1～7	1）ペーパーペイジェントを用いて精神の看護過程の展開 ①オリエンテーション ②事例紹介 ③情報収集、アセスメントの視点 ④全体像の捉え方 ⑤看護計画立案の要点 ⑥発表、まとめ
時間外	評価（100点）

4．評価方法

終講試験および評価表に基づき行う。100点満点で表された成績を100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。
ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

５. テキスト・参考文献

使用テキスト

概論：精神看護学Ⅰ　精神看護学：ヌーベルヒロカワ

看護過程：精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学：ヌーベルヒロカワ

参考文献

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔１〕精神看護の基礎 ： 医学書院

系統看護学講座　別巻12　精神保健福祉 ：医学書院

精神医療看護の歩み（宮内　充）：頸草書房

ナースをサポートするケアのための心理学（古城和敬他）：北大路書房

精神看護学「精神保健」（太田保之・川崎千里編著）：医歯薬出版

国民衛生の動向：厚生労働統計協会

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	精神看護学Ⅰ	1（30）	2年前期	講義
担当教員	山本久雄（実務経験者）　医療機関において精神科医としての経験がある。			

1．授業概要

人間のライフサイクルにおけるこころの健康・不健康に関する知識を深め、人々のこころの健康の保持・増進・健康障害のレベルに応じた適切な基礎的援助ができるように学ぶ。

2．到達目標

精神疾患の理解を深めるとともに治療モデルを学び、看護者としての患者との関わり方や適切な援助方法についてアセスメントできるよう学習をする。

3．授業計画

回数	内　　容
1～3	代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）統合失調症・躁鬱病
4～6	2）神経症・心身症
7～9	3）器質性精神病
10～12	4）薬物依存症
13～14	5）てんかん
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　：ヌーベルヒロカワ

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	精神看護学Ⅱ	1（30）	2年後期	講義
担当教員	梅木達也（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			
	三浦美香（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			
	小田原三奈（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

精神疾患の理解を深めるとともに治療モデルを学び、看護者としての患者とのかかわり方や適切な援助方法についてアセスメントできるよう学習する。

2．到達目標

1）基本的人権を尊重した精神障害者への看護の役割と機能がわかる。
2）急性期・慢性期・回復期にある患者の理解と援助方法がわかる。

3．授業計画

回数	内　　容
1	1）対人援助方法（患者－看護者関係）
2	2）精神科におけるコミュニケーションと観察のポイント
3	3）基本的人権の尊重と治療上の制限、安全と保護のための看護のあり方
4	4）医療の中の危機（危機予防と精神看護）
5～6	5）症状別援助方法
7～8	6）生活の援助技術・行動制限と身体的拘束・代理行為
9～10	7）薬物療法の援助方法
11	8）ケースからみた統合失調症患者の援助方法
12	9）生活技能訓練・訪問看護デイケア
13	10）社会復帰のための地域との連携（社会資源の活用）
14	11）精神保健福祉法（入院形態）
15	テスト・まとめ

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト

精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　：ヌーベルヒロカワ

参考文献

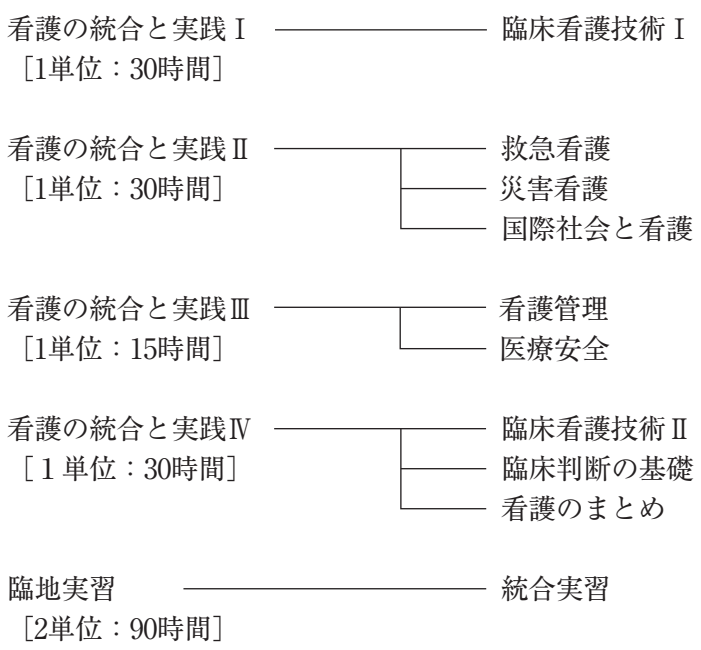
精神看護学Ⅰ　精神保健学：ヌーベルヒロカワ

看護の統合と実践の考え方

看護の統合と実践では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学んだ内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する。看護の統合と実践Ⅰでは、２年次の長期実習の前にすでに学んだ知識と技術を統合させる。看護の統合と実践Ⅱでは、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解すること、国際社会において広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えること、救急看護について学ぶ。看護の統合と実践Ⅲでは、チーム医療および多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップの理解、看護をマネジメントできる基礎的能力、医療安全の基礎的知識について学ぶ。看護の統合と実践Ⅳは臨床看護技術Ⅱ、臨床判断能力の基礎、看護のまとめで構成されている。臨床看護技術Ⅱでは看護の知識、技術、態度の統合を図る。また、現代の社会の変化を背景に看護の対象や療養の場が多様化するなかで、看護師には複雑な状況を把握し、適切な判断に基づく対応が求められている。そのため、臨床判断能力の基礎では、「看護師のように考える」ことをめざし、「気づき」「解釈」し、実践につなげていくプロセスを学ぶ。看護のまとめでは、３年間の看護を振り返り、評価する。

臨地実習では、看護実践能力をさらに高め、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるために必要な看護を学ぶ。

＜看護の統合と実践の構造＞



専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	看護の統合と実践Ⅰ	1（30）	2年前期	演習
担当教員	井上典枝（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた看護技術を実践する能力を養う。成人・老年看護学実習Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅱに向けて対象に必要な技術を考え練習する。

2．到達目標

1）日常生活援助を行う上で、事例の条件を考慮し、対象の状態に応じた方法・留意点を考えることができる。

2）安全・安楽に配慮しながら、効果的に援助技術を実施できる。

3．授業計画

回数	内　　容
1～2	1）麻痺のある患者の寝衣交換
3～4	2）麻痺のある患者のトイレ介助
5～7	3）関節拘縮のある患者の手浴・足浴
8～9	4）輸液中の患者の寝衣交換
10～12	5）ベッド上安静患者の洗髪（洗髪車）
13～15	6）誤嚥しやすい患者の口腔ケア
時間外	評価

4．評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

5．テキスト・参考文献

使用テキスト　　なし

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	看護の統合と実践Ⅱ	1（30）	2年後期	講義・演習

担当教員		
	救急看護	井上陽士（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	災害看護	坂本晃成（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	国際社会と看護	桑野紀子（実務経験者）医療機関･保健機関において助産師･保健師としての経験がある。
		丸山加菜（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜救急看護＞

様々な救急状態にある人に対する基礎的な援助方法を学ぶ。

＜災害看護＞

災害が人々の生命や生活におよぼす影響を理解し、災害直後から支援できる看護の基礎知識を得る。

＜国際社会と看護＞

国際社会に対する保健･医療･福祉の実情を知り、国際協力について考える。

2．到達目標

＜救急看護＞

1）救急看護の概念が理解できる。
2）救急状態にある患者および家族の特徴がわかる。
3）救急状態にある患者および家族への援助方法が理解できる。

＜災害看護＞

1）災害医療・災害看護の概念を理解できる。
2）災害が人々の生命や生活におよぼす影響について理解できる。
3）災害各期の看護活動がわかる。
4）災害時の応急処置の実際を理解できる。

＜国際社会と看護＞

1）国際社会における保健・医療・福祉の実情がわかる。
2）医療・看護の国際協力の実際を知ることができる。
3）国際社会での諸外国との協力について考えることができる。

3．授業計画

＜救急看護＞　10時間

回数	内　　容
1～2	1）救急看護の概念 2）救急看護の対象の理解 3）救急看護体制と看護の展開 4）救急患者の観察とアセスメント
3～5	5）主要症状に対する救急処置と看護 一次救急処置、二次救急処置、意識障害、呼吸障害、 ショック・循環障害、急性腹症、体液・代謝異常、外傷、熱傷、中毒、溺水、刺咬症 6）救急時の看護技術 救急患者の搬送、止血法、人工呼吸、気管切開、血管確保、モニター、 穿刺、創傷処置 7）救急時に使用される医薬品 演習：心肺蘇生法とＡＤＥの使い方 骨折・脱臼・捻挫などの応急処置 疾病時（心臓病、脳卒中、肢痛、中毒、熱中症）の応急処置 搬送救護方法
時間外	テスト（100点）

＜災害看護＞　10時間

回数	内　　容
1～3	1）災害医療看護の基礎知識 2）災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 ①急性期・亜急性期 書道体制、避難所の立ち上げ、トリアージ、応急処置 ②慢性期・復興期 災害マニュアル、防災訓練、災害教育
4～5	3）被災者特性に応じた災害看護 4）災害と心のケア 5）地震災害の看護の展開
時間外	テスト（100点）

＜国際社会と看護＞　10時間

回数	内　　容
1～3	1）災害医療看護の基礎知識 2）災害サイクルに応じた活動現場の災害看護 ①急性期・亜急性期 書道体制、避難所の立ち上げ、トリアージ、応急処置 ②慢性期・復興期 災害マニュアル、防災訓練、災害教育
4～5	3）被災者特性に応じた災害看護 4）災害と心のケア 5）地震災害の看護の展開
時間外	テスト（100点）

4．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を 100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

救急看護

使用テキスト：系統看護学講座　別巻　救急看護学：医学書院

災害看護

使用テキスト：系統看護学講座　看護の統合と実践［3］災害看護学・国際看護学：医学書院

国際社会と看護

使用テキスト：系統看護学講座　看護の統合と実践［3］災害看護学・国際看護学：医学書院

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	看護の統合と実践Ⅲ	1（15）	3年前期	講義
担当教員	甲斐仁美（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			
	河野治香（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

＜看護管理＞

看護の動向を知り、看護をマネージメントする基礎的能力を養うとともに、医療チームの中での看護師のリーダーシップ・メンバーシップを理解する。

＜医療安全＞

医療安全管理体制に関する基本的な考え方を学び、患者に医療行為を行う時や医薬品を投与する時、医療器具を装着する時に存在する危険を認識する能力を養う。

2．到達目標

＜看護管理＞

1）看護管理の概念を理解し、その要素がわかる。

2）看護マネジメントの変遷とマネジメントの必要性がわかる。

＜医療安全＞

1）医療現場における危険要因がわかる。

2）看護事故の構造と事故防止の視点および考え方がわかる。

3．授業計画

＜看護管理＞　8時間

回数	内　　容
1～2	1）医療保険制度と医療チームの構造 2）看護サービス提供組織としてのシステムとマネジメント
3～4	3）看護職間や他職種との協働におけるメンバーシップとリーダーシップ
時間外	テスト（50点）

＜医療安全＞　8時間

回数	内　　容
1～2	1）医療安全対策推進の背景と組織としての対策 2）医療事故に伴う看護職の法的責任 3）医療事故と看護業務
3～4	4）看護事故防止の考え方 5）事故防止のための情報伝達と共有 6）医療安全における医療従事者と患者との協働の必要性 演習：事例をもとに事故の要因・対策を考える。
時間外	テスト（50点）

5．評価方法

終講試験によって行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6．テキスト･参考文献

使用テキスト

系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践〔1〕 看護管理 ： 医学書院

Basic &Practice　医療安全　患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力：学研

参考文献

系統看護学講座　専門分野　看護学概論　基礎看護学1　： 医学書院

新体系　看護学全集37巻　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全：メヂカルフレンド

	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
専門分野	看護の統合と実践Ⅳ	1（30）	3年前期	講義・演習

担当教員	臨床看護技術Ⅱ（成人）	芦刈順子（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	臨床看護技術Ⅱ（統合）	徳丸昌子（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	臨床判断能力の基礎	大塚里美（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。
	看護のまとめ	徳丸昌子（実務経験者）医療機関において看護師としての経験がある。

1．授業概要

＜臨床看護技術Ⅱ＞

成人・老年看護学実習（慢性期）、および統合実習に備え、既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた技術の習得をする。

＜臨床判断能力の基礎＞

「看護師のように考える」ことをめざし、「気づき」「解釈」し、実践につなげていくプロセスを学ぶ。

＜看護のまとめ＞

演習・実習を振り返り、自己の看護技術の到達度を明確にする、また、自己の看護観を深める。

2．到達目標

＜臨床看護技術Ⅱ＞

1）成人・老年期にある対象（慢性期）の病態が理解でき、必要な学習支援を考えることができる。

2）統合実習に向けて多重課題への対応を考えることができる。

＜臨床判断能力の基礎＞

1）臨床判断を行うためのプロセスを理解し、臨床判断能力の基礎を養う。

＜看護のまとめ＞

1）3年間を振り返り、看護技術の到達度について自己評価ができる。

2）実習での看護体験をもとに、自己の看護観をまとめることができる。

3．授業計画

＜臨床看護技術Ⅱ成人＞　6時間

回数	内　　容
1～3	1）慢性期にある成人・老年患者への学習支援 食事指導、生活指導、嚥下訓練
時間外	評価（50点）

＜臨床看護技術Ⅱ統合＞　8時間

回数	内　　容
1～4	1）統合実習に向けて多重課題への対応 2）統合実習へ向けて状況に応じた技術の習得 輸液ポンプ、酸素ボンベの取り扱い、点滴の準備、 経管栄養、ストーマの処置、導尿、吸引等
時間外	評価（50点）

＜臨床判断能力の基礎＞　8時間

回数	内　　容
1～4	1）臨床判断とは 2）臨床判断のプロセス 3）事例を用いたシミュレーション学習
時間外	評価（50点）

＜看護のまとめ＞　８時間

回数	内　　容
1	1）看護技術の自己評価
2～3	2）看護観のまとめ
4	3）看護観の発表
時間外	評価（50点）

4. 評価方法

評価表に基づいて行う。100点満点に換算した成績を、100点～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

5．テキスト・参考文献

参考文献

ナースのための通院指導マニュアル：南江堂

系統看護学講座　専門　基礎看護学［1］看護学概論：医学書院

臨　地　実　習

専門分野Ⅰ	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学実習Ⅰ	1（45）	1年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

健康上の問題を持つ対象者と日常生活援助技術を通して、生活者の視点で理解する。日常生活援助技術や人間関係形成について振り返ることによって、基礎看護学実習Ⅱへのスムーズな導入とする。

2．到達目標

＜基礎看護学実習Ⅰ-a＞

1）医療を受ける対象の医療環境（療養環境）を知る。
2）病院における看護活動の実際を知る。

＜基礎看護学実習Ⅰ-b＞

1）入院前と入院後の生活状況を情報収集し、日常生活を整えるために必要な援助がわかる。
2）看護師とともに日常生活援助を実践し、患者の状態や反応がわかる。
3）実践した日常生活援助を振り返り、学んだこと、今後の課題がわかる。

3．内容

＜基礎看護学実習Ⅰ-a＞

日	学　習　内　容
1日目	1）申し送りを見学する。 2）病棟オリエンテーションを受ける。 3）看護師に同行し、看護を見学する。患者とコミュニケーションを図る。 4）施設オリエンテーションを受ける。 5）病院内の見学をする。 6）カンファレンスを通して、1日の学びを振り返る。

＜基礎看護学実習Ⅰ-b＞

日	学　習　内　容
1～2日目	1）オリエンテーションを受ける。 2）担当看護師と共に病棟の看護を見学・実践する。 3）受け持ち患者の観察とケアを看護師とともに見学・実施する。 4）受け持ち患者の情報収集をする。
3～4日目	1）受け持ち患者の観察とケアを看護師または教員と実施する。援助の際は安全・安楽に配慮し、反応を観察しながら実施する。 2）担当看護師と一日の振り返りを行い、翌日の実習に活かす。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
基礎看護学実習Ⅰ-a	9時間×1日	病院
基礎看護学実習Ⅰ-b	9時間×4日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	基礎看護学実習Ⅱ	2（90）	2年後期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

健康障害のある対象の日常生活行動における援助の必要性を判断し、看護を展開する基礎能力を養う。また、対象の看護を通して看護の喜びを得る。

2．到達目標

1）対象を身体面、心理面、社会面からとらえ、科学的根拠に基づいて看護の必要性を考える。
2）看護計画を立案、実施、評価する過程を通し、対象の個別性を考慮し、状況に応じたより良い看護を探求する。
3）対象の看護を、安全・安楽に配慮し、反応を見ながら実施する。
4）看護の対象者を尊重し、対象や医療チームメンバーとの人間関係を円滑にし、よりよい看護を考えることの重要性を理解する。

3．内容

日	実　習　内　容
1～2日目	1）実習病棟の一日の流れがわかり実習生としての動きに慣れる。 2）担当看護師と共に病棟の看護を実践する。 3）受け持ち患者のケアとバイタルサインの測定を実施する。
3～7日目	1）受け持ち患者の情報を収集し、全体像を把握する。 2）受け持ち患者のケアとバイタルサイン測定を実施する。 3）看護計画を立案する。
8～10日目	1）看護計画立案後は、計画に沿って援助を実施する。 2）日々の援助を振り返り、計画の評価・修正をする。 3）状況に応じて、看護師ともに受け持ち患者以外の看護を実践する。

4．授業計画

区分	時間	実習場所
基礎看護学実習Ⅱ	9時間×10日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	地域・在宅看護論実習	2（90）	3年後期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

地域・在宅で療養・暮らす療養者とその家族を理解し、住み慣れた地域・在宅で生活するために必要な看護を学ぶ。

2．到達目標

＜地域・在宅看護論実習ａ＞

1）地域の特性を知る。
2）保健活動を通して保健・医療・福祉の連携および事業の法的根拠や目的がわかる。
3）保健活動の実際を知り地域における在宅看護の役割について学ぶ。

＜地域・在宅看護論実習ｂ＞

1）利用者と家族の生活環境を知る。
2）利用者と家族の療養上の問題を理解する。
3）利用者と家族への援助の必要性を理解する。
4）訪問看護に同行し、利用者や家族の観察や援助を看護師と共に実施する。
5）訪問看護を通して、利用者を支えるための保健・医療・福祉の連携を知る。

3．内容

＜地域・在宅看護論実習ａ＞市役所

日	実　習　内　容
1～4日目	1）施設の流れに沿って実習をする。 2）地域で生活する人を支えるための保健師の役割を学ぶ。 3）保健活動（事業・訪問指導）に参加し、住民の反応を知り、必要性について学ぶ。 4）調整会議に参加し、他の関連機関との連携がわかる。

＜地域在宅看護論実習ｂ＞訪問看護ステーション

日	実　習　内　容
1～5日目	1）受け持ち利用者、他の利用者の訪問看護に同行する。 2）利用者1名を受け持ち、利用者・家族の療養上の問題を考え、看護師と共に必要な援助を実施する。 3）利用者・家族を支えるための保健・医療・福祉の連携を学ぶ。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
地域・在宅看護論実習ａ	10時間×4日間	市役所
地域・在宅看護論実習ｂ	10時間×5日間	訪問看護ステーション

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人・老年看護学実習Ⅰ	2（90）	2年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

＜成人・老年看護学実習Ⅰ-a＞

介護老人保健施設に入所している高齢者の特徴を知り、機能の維持、向上を目指した看護を体験する。また、通所サービスを受けている利用者の特徴を知る。

＜成人・老年看護学実習Ⅰ-b＞

認知症高齢者の特徴を知り、一人ひとりが安心して生活できるケアについて理解する。健康上の問題のある対象者と日常生活援助を通して、生活者の視点で理解する。日常生活援助技術や人間関係形成について振り返ることによって、基礎看護学実習Ⅱへのスムーズな導入とする。

2．到達目標

＜成人・老年看護学実習Ⅰ-a＞

1）高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を知る。
2）生活リハビリテーションを考慮した援助ができる。
3）日常生活の中のレクリエーションや行事の意義を知る。
4）施設における保健・医療・福祉メンバーの役割および連携の実際を知る。
5）高齢者の人格や価値観を尊重する姿勢を身につける。

＜成人・老年看護学実習Ⅰ-b＞

1）グループホームの機能と役割を理解する。
2）認知症高齢者の特徴がわかる。
3）認知症高齢者の状況に応じたケアができる。

3．内容

＜成人・老年看護学実習Ⅰ－a＞介護老人保健施設

日	実　習　内　容
1～5日目	1）受け持ち利用者のバイタルサイン測定および情報収集をする。 2）施設の流れに沿って援助の見学・実施をする。 3）日常生活リハビリテーションを考慮して、援助をする。 4）状況に応じて受け持ち利用者以外の援助をする。 5）レクリエーションは、施設の計画に沿って参加する。 6）実習3～4日目に通所サービスで一日実習する。通所サービスでは、施設の流れに沿って指導者と共に見学・実施する。 7）実習目標および実践を通しての学びについて、毎日カンファレンスをもつ。実習最終日には、振り返りのカンファレンスを行う。

＜成人・老年看護学実習Ⅰ－b＞グループホーム

日	実　習　内　容
1～5日目	1）オリエンテーションを受け、グループホームの機能と役割を知る。 2）援助は施設の一日の流れに沿って援助の見学・実施をする。 3）受け持ち利用者を中心にコミュニケーションや援助をし、認知症高齢者の特徴を学ぶ。 4）レクリエーションは、施設の計画に沿って参加する。 5）実習目標および実践を通しての学びについて、毎日カンファレンスをもつ。実習最終日には、振り返りのカンファレンスを行う。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
成人・老年看護学実習Ⅰ－a	9時間×5日	介護老人保健施設で4日　通所リハビリテーションで1日
成人・老年看護学実習Ⅰ－b	9時間×5日	グループホーム

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人・老年看護学実習Ⅱ	2（90）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象を身体的・心理的・社会的に理解し、自己管理能力の維持・向上を目指した看護を実践する能力を養う。

2．到達目標

1）生涯にわたり疾病コントロールを必要とする対象の特徴を理解し、看護上の問題を明らかにできる。
2）対象が自己管理能力を維持・向上するための指導を学ぶ。
3）対象が退院後の生活に適応し、安心して生活するための多職種連携と協働の実際を理解する。

3．内容

日	実　習　内　容
1～5日目	1）生涯にわたり疾病コントロールをする必要がある対象を受け持つ。 2）病棟の一日の流れ、患者の生活がわかり、実習生としての動きに慣れる。 3）受け持ち患者の情報収集をしながら、看護師と共にケアをする。 4）3～4日目に、受け持ち患者記録を整理し、看護上の問題を考える。 5）5日目に、受け持ち患者の看護計画を立案し、計画に沿って看護を援助する。
6～10日目	1）日々の援助を振り返り、患者の状態に合わせた看護を実施する。 2）看護師とともに病棟の看護を実践する。また、検査・治療・処置の見学をする。 3）退院支援カンファレンス、退院支援の場面に積極的に参加し、実際を学ぶ。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
成人・老年看護学実習Ⅱ	9時間×10日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人・老年看護学実習Ⅲ	3（135）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

周手術期にある対象の特徴を理解し、手術による心身への侵襲を最小限にして回復促進を目指した看護を実践する能力を養う。

2．到達目標

1）周手術期にある対象の特徴を理解し、看護上の問題を明らかにできる。
2）生命の安全と苦痛の緩和にむけた援助ができる。
3）合併症予防と回復の促進に応じた援助が実施できる。
4）社会生活適応への自己管理にむけた援助が実施できる。

3．内容

日	実　習　内　容
1～2日目	1）4月、5月の実践活動外時間で、周手術期看護のＤＶＤ学習、術前・術後のシミュレーション学習を行う。
3～8日目	1）周手術期にある対象を受け持つ。病棟の一日の流れ、患者の生活がわかり、実習生としての動きに慣れる。 2）手術室オリエンテーションを受け、手術室看護師の役割について学ぶ。機会があれば手術見学を行う。 3）受け持ち患者の情報収集をしながら、看護師と共にケアをする。 4）臨地での3～4日目に、受け持ち患者の情報を整理し、看護上の問題を考える。 5）受け持ち患者の経過を見ながら、病棟の看護計画に沿って援助（合併症予防、身体的な苦痛の緩和）をする。
9～15日目	1）日々の援助を振り返り、患者の状態に合わせた日常生活援助をする。 2）受け持ち患者以外でも手術を受ける患者の看護を積極的に見学・実施する。 3）検査・治療・処置の見学をする。 4）術後の生活への影響を考慮した退院支援を学ぶ。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
成人・老年看護学実習Ⅲ	27時間	4～5月に学内（実践活動外時間）で15時間。 実習期間中に学内（実践活動外時間）で12時間。
	9時間×12日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	成人・老年看護学実習Ⅳ	3（135）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

終末期にある対象の特徴を理解し、対象の苦痛の緩和とQOLの向上を目指した看護を実践する能力を養う。

2．到達目標

1）終末期にある対象の特徴を理解し、看護上の問題を明らかにできる。
2）対象や家族の苦痛を理解し緩和するための援助方法を工夫することができる。
3）QOLを高める働きかけができる。
4）終末期にある対象の看護を通して自己の死生観を深めることができる。

3．内容

日	実　習　内　容
1～2日目	1）4月、5月の実践活動外時間で、終末期に関するＤＶＤ学習、ＱＯＬの向上を目指した看護のシミュレーション学習を行う。
3～8日目	1）終末期にある対象を受け持つ。病棟の一日の流れ、患者の生活がわかり、実習生としての動きに慣れる。 2）受け持ち患者の情報収集をしながら、看護師と共にケアをする。 3）臨地での3～4日目に、受け持ち患者の情報を整理し、看護上の問題を考える。 4）受け持ち患者の看護計画を立案し、計画に沿って援助をする。
9～15日目	1）日々の援助を振り返り、患者の状態に合わせた看護（ＱＯＬの向上、苦痛の緩和）を実施する。 2）看護師とともに受け持ち患者以外の看護を実践する。また、検査・治療・処置の見学をする。 3）カンファレンスを通して、自己の死生観を深める。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
成人・老年看護学実習Ⅳ	27時間	4～5月に学内（実践活動外時間）で15時間。 実習期間中に学内（実践活動外時間）で12時間。
	9時間×12日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	小児看護学実習	2（90）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

乳幼児の理解を深め、健やかな成長・発達を遂げるための関わり方を学ぶ。さらに、疾病や障がいが子どもと家族に与える影響を理解し、子どもの権利の尊重を基盤とした看護と保健・医療・福祉・教育の連携と協働の実際を学ぶ。

2．到達目標

＜小児看護学実習ａ＞

1）乳幼児の発達段階の特徴を理解する。

2）子どもの権利を守り、健やかな成長・発達を遂げるための支援と教育・保育施設の役割を学ぶ。

＜小児看護学実習ｂ＞

1）障がい児・者の成長・発達を理解する。

2）障がい児・者の尊厳を守り、安全で充実した日々を過ごすための看護師の役割と多職種連携・協働の実際を学ぶ。

＜小児看護学実習ｃ＞

1）小児と家族が安全で安心して医療を受けるための看護師の役割を理解する。

2）小児の外来の機能を理解し、小児と家族が安心して生活するための多職種連携の必要性を理解する。

3．内容

＜小児看護学実習ａ＞　教育・保育施設

日	実　習　内　容
1～4日目	1）年少児から年長児までの各クラスを体験し、成長発達の特徴を学ぶ。 2）乳幼児の日常生活支援を担当クラスの先生・他の職員と一緒に見学・実施する。

＜小児看護学実習ｂ＞　障がい児・者施設

日	実　習　内　容
1～4日目	1）利用者の援助を担当看護師、職員と一緒に施設の流れに沿って見学・実施する。 2）療育活動やリハビリの見学・参加が可能な場合は参加し、多職種との連携と協働について学ぶ。

＜小児看護学実習ｃ＞　小児科外来

日	実　習　内　容
1～4日目	1）一般外来では、受付、待合室、診察・検査・処置時の看護を指導者と共に見学・実施する。 2）専門外来、予防接種、乳幼児健康診査などの機会があれば参加し、可能であれば技術の見学・実施をする。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
小児看護学実習ａ	8時間×4日	教育・保育施設
小児看護学実習ｂ	8時間×4日	障がい児・者施設
小児看護学実習c	8時間×4日	小児外来

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	母性看護学実習	2（60）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

新しい家族の誕生期にある人々の理解および妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象に必要な基本的な看護が実践できる能力を養う。

2．到達目標

1）妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の理解および看護を学ぶ。
2）地域社会における母子の健康を保持増進するための社会的資源の活用について知る。
3）母性看護を通して、母性観・父性観を育むことができる。

3．内容

日	実　習　内　容
1日目	1）実践活動外時間で、妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期に必要な看護技術の習得をする。
2～6日目	1）妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象を1名受け持ち助産師・看護師と共に看護（分娩、母乳・調乳指導、新生児の対外生活適応への援助）を見学・実施する。 2）外来にて妊婦定期健康診査、1カ月健診を見学する。 3）地域社会における母子の健康を保持するための社会的資源の活用について知る。
7日目	1）実践活動外時間で、自己の母性観・父性観を深める。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
母性看護学実習	8時間×2日	4～5月に学内（実践活動外時間）で8時間。 実習終了後に学内（実践活動外時間）で8時間。
	9時間×5日	病院・医院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	精神看護学実習	2（90）	3年前期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

精神疾患のある対象の特徴とその家族への理解を深め、精神看護学の健康を回復して社会生活への適応に向けた看護が実践できる能力を養う。

2．到達目標

1）精神疾患のある患者を理解する。
2）精神疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、援助の必要性と方法を学ぶ。
3）対象者－看護者（学生）間の相互作用の中で自己洞察を深め対象者への接近方法を学ぶ。
4）精神疾患のある患者の検査・治療の実際を知る。
5）社会復帰に向けての保健・医療・福祉チームにおける看護者の悪割について学ぶ。

3．内容

日	実　習　内　容
1～4日目	1）患者の治療環境を捉える。 2）患者の発達段階を知る。 3）疾患が患者に及ぼす日常生活の規制を理解し、患者の安全に関連付ける。 4）症状を病態生理と関連させながら理解する。 5）疾患が身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を理解する。 6）患者の日常生活行動を観察し、その意味を考える。
5～8日目	1）プロセスレコードを通して患者、家族－看護者（学生）の相互作用について自分の意見を述べ、助言を受けることにより発想の転換をする。 2）患者に行われている薬物療法・生活療法・作業療法などの実際を理解する。 3）患者の背景を知り、患者が受けている社会的不利について理解する。
9～10日目	1）患者の人権の尊重やノーマライゼーションについて考える。 2）精神科デイケアで実習し、継続看護の重要性、社会資源の活用の方法の実際を学ぶ。 3）精神保健福祉士の臨床講義を受け、社会復復帰の働きかけの実際を学ぶ。 4）医療チームの役割について理解する。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
精神看護学実習	9時間×10日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

専門分野	教　科	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	統合実習	2（90）	3年後期	実習
担当教員	学内教員（実務経験者）　医療機関において看護師としての経験がある。			

1．授業概要

看護専門職としての役割を理解し自覚と責任および時間管理ができる能力を養う。また、医療・看護について探求する姿勢を身につけ、自己の看護観を見つめ、社会人としての自律性を育み、看護師になるという意識を養う。

2．到達目標

1）看護部長や病棟看護師長（科長）・副師長（主任）の管理業務の実際を知る。
2）複数の患者に対するケアの優先度を判断し、看護師とともに実施できる。
3）看護チームでの看護師・チームリーダーの役割を知る。
4）自己の目指すべき看護を述べることができる。

3．内容

日	実　習　内　容
1～4日目	1）初日に看護部長より病院組織における看護管理についてオリエンテーションを受ける。その後、病棟師長（科長）より師長（科長）の役割と説明を受け、業務の見学をする。 2）副師長（主任）の役割と業務について説明受け、業務の見学をする。 3）3日目にリーダー業務、日勤帯業務を体験する。夜勤への引継ぎを見学する。 4）4日目に2人の受け持ち患者の情報収集を行う。
5～10日目	1）チームの一員として、看護実践をする。 2）業務の流れを把握し、看護の優先順位を考えながら、2人の受け持ち患者の看護を実践する。 3）病棟カンファレンスに参加し、チーム医療および他職種との協働について考える。 4）自己の目指す看護の方向性を考える。

4．授業計画

区　分	時　間	実習場所
統合実習	9時間×10日	病院

5．評価方法

実習評価表に基づき行う。100点満点で表し、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

巻　末　資　料

各教科とディプロマポリシーの関連

分野	教育内容	教科	ディプロマポリシー							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			人間が身体的・精神的・社会的に統合された存在であることを理解する。	対象の価値観を尊重したコミュニケーションを図り、信頼関係ができる。	看護職としての倫理観をもち、法令を遵守し、行動できる。	科学的根拠に基づいて現状を把握し、必要な看護を考え実践できる。	対象の状態に合わせて、安全・安楽・自立/自律に留意しながら看護を実践できる。	保健・医療福祉関係者間の協働の必要性について理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有しながら看護を実践できる。	看護実践医置ける自らの課題の取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解できる。	自己研鑽し、学び続ける姿勢を持つことができる。
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学				○				
		物理学				○				
		情報科学Ⅰ				○				
		情報科学Ⅱ				○				
		統計学				○				
	人間と生活・社会の理解	心理学	○	○						
		発達論	○	○						
		行動科学	○	○						
		コミュニケーション論		○						
		社会学	○							
		家族論	○							
		教育学	○	○						
		英語		○						
		リラクゼーション	○							
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	○							
		解剖生理学Ⅰ	○							
		解剖生理学Ⅱ	○							
		解剖生理学Ⅲ	○							
		解剖生理学Ⅳ	○							
		解剖生理学演習	○							
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	○							
		病理学Ⅰ	○							
		病理学Ⅱ	○							
		病理学Ⅲ	○							
		病理学Ⅳ	○							
		病理学Ⅴ								
		薬理学	○		○	○				
		栄養学	○			○				
		臨床病態学演習Ⅰ	○							
		臨床病態学演習Ⅱ	○							
	健康支援と社会保障制度	保健医療論						○		
		公衆衛生学	○		○			○		
		保健行政論			○			○		
		関係法規			○					
		社会福祉Ⅰ						○		
		社会福祉Ⅱ						○		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	○		○	○	○			
		基礎看護学Ⅰ	○	○		○	○			
		基礎看護学Ⅱ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅲ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅳ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅴ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅵ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅶ	○			○	○			
		基礎看護学Ⅷ				○	○			
		臨床看護総論				○	○			
		看護研究				○	○			○

分野	教育内容	教科	ディプロマポリシー							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			人間が身体的・精神的・社会的に統合された存在であることを理解する。	対象の価値観を尊重したコミュニケーションを図り、信頼関係ができる。	看護職としての倫理観をもち、法令を遵守し、行動できる。	科学的根拠に基づいて現状を把握し、必要な看護を考え実践できる。	対象の状態に合わせて、安全・安楽・自立/自律に留意しながら看護を実践できる。	保健・医療福祉関係者間の協働の必要性について理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・共有しながら看護を実践できる。	看護実践医置ける自らの課題の取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性を理解できる。	自己研鑽し、学び続ける姿勢を持つことができる。
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	○			○	○			
		地域・在宅看護概論Ⅱ	○			○	○			
		地域・在宅看護論Ⅰ	○			○	○			
		地域・在宅看護論Ⅱ	○			○	○			
		地域・在宅看護論Ⅲ	○			○	○			
		地域・在宅看護論Ⅳ	○			○	○			
	成人看護学	成人看護学概論	○			○	○	○		
		成人看護学Ⅰ	○			○	○			
		成人看護学Ⅱ	○			○	○			
		成人看護学Ⅲ	○			○	○			
		成人看護学Ⅳ	○			○	○			
		成人看護学Ⅴ	○			○	○			
	老年看護学概論	老年看護学概論	○			○	○	○		
		老年看護学Ⅰ	○			○	○			
		老年看護学Ⅱ	○			○	○			
		老年看護学Ⅲ	○			○	○			
	小児看護学	小児看護学概論	○			○	○	○		
		小児看護学Ⅰ	○			○	○			
		小児看護学Ⅱ	○			○	○			
		小児看護学Ⅲ	○			○	○			
	母性看護学概論	母性看護学概論	○			○	○			
		母性看護学Ⅰ	○			○	○			
		母性看護学Ⅱ	○			○	○			
		母性看護学Ⅲ	○			○	○			
	精神看護学	精神保健	○		○					
		精神看護学概論	○			○	○	○		
		精神看護学Ⅰ	○			○	○			
		精神看護学Ⅱ	○			○	○	○		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	○			○	○			
		看護の統合と実践Ⅱ	○			○	○	○		
		看護の統合と実践Ⅲ	○		○	○	○		○	
		看護の統合と実践Ⅳ	○			○	○			
臨地実習	基礎	基礎看護学実習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
		基礎看護学実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○
	地在	地域・在宅看護論実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	成人・老年	成人・老年看護学実習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
		成人・老年看護学実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○
		成人・老年看護学実習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○
		成人・老年看護学実習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○
	小児	小児看護学実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	母性	母性看護学実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	精神	精神看護学実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	統合	統合実習	○	○	○	○	○	○	○	○

成人・老年　経過別・疾患別・看護・教育内容マトリックス

成人看護学	概論		①成人の特徴　②成人期の健康障害　③健康維持のための援助　④成人保健　⑤成人に対する保健福祉医療対策					
	成人看護学Ⅰ		経過別看護（30ｈ）					
			急性期にある患者の看護 ①急性期とは ②急性期にある人と家族の特徴 ③急性期看護の特徴 ④急性期にある人への看護援助	**周手術期にある患者の看護** ①周手術期とは　②手術患者の特徴 ③手術前　④手術中の看護　⑤術後看護 ⑥術後の継続看護 **＊周手術期看護技術** 創傷処置（ドレーンも含む）	**慢性期にある患者の看護** ①慢性期とは　②慢性疾患とは ③慢性期にある人と家族の特徴 ④疾病の受け入れ過程 ⑤慢性疾患患者のＱＯＬ ⑥慢性期の看護の特徴 ⑦慢性期の看護活動	**回復期・リハビリテーション期にある患者の看護** ①リハビリテーション期とは ②リハビリテーション看護の考え方 ③リハビリテーションを必要とする人と家族の特徴 ④リハビリテーション期における看護活動 **＊リハビリテーション期看護技術** ベッドサイドリハビリテーション（演習） ・ＳＬＲ・セッティング 肺理学療法（演習） ・体位ドレナージ・スクィージング	**終末期にある患者の看護** ①終末期とは ②終末期にある人と家族の特徴 ③終末期にある人への看護活動 （死後の処置を含む） ＜緩和ケア＞ ・倦怠感、痛み、浮腫、呼吸器症状、腹部症状、精神症状をもつ患者の看護 ・ターミナル期のコミュニケーション ・医療従事者のストレスとその対処方法	ベッドサイドリハビリテーション （演習） 体位ドレナージ スクィージング （演習）
	成人看護学Ⅱ	消化器系（22ｈ）	**胃･十二指腸潰瘍** （症状）・吐血　・腹痛 （治療・処置）・薬物療法・食事療法 （検査）・胃透視 **イレウス** （症状）・排便停止・腹痛・嘔吐 （治療・処置）・食事療法（絶食） ・イレウスチューブ （検査）・腹部Ｘ線	**食道がん** （症状）・ （治療・処置）・食道切除術 （検査） **胆石症** （症状）・疝痛発作・閉塞性黄疸 （治療・処置）・ＰＴＣＤ・内視鏡下胆嚢摘出術 （検査）・ＤＩＣ・ＥＲＣＰ **胃がん** （症状）・ダンピング症候群･胃切除後症候群 （治療・処置）・胃切除術 （検査）・胃透視・胃カメラ	**慢性肝炎･肝硬変** （症状）・倦怠感・悪心･嘔吐・掻痒感 ・腹水・黄疸・肝性脳症 ・門脈圧亢進症状 （治療・処置）・食事療法・薬物療法 ・インターフェロン療法 ・腹腔穿刺 ・ｾﾞﾝｸﾞｽﾀｰｹﾝ･ﾌﾞﾚｲｸﾓｱﾁｭｰﾌﾞ （検査）・肝生検	**大腸がん** （症状）・便秘、下痢 （治療・処置）・マイルスの手術 ・ストマケア（デモ） ・生活指導(検査) ・大腸ファイバー ・注腸透視		ストーマケア（デモ）
		内分泌系（8ｈ）		**甲状腺機能亢進症** （症状）・甲状腺機能亢進症状 （治療・処置）・手術療法　・放射線療法 ・薬物療法（ホルモン療法） （検査）・アイソトープ検査	**糖尿病** （症状）・高血糖・低血糖・多尿､多飲 （治療・処置）・薬物療法・インシュリン自己注射 ・食事療法・運動療法 （検査）・自己血糖検査　＊デモ **痛風、高脂血症･ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸ症候群** （症状）・肥満・痛風発作 （治療・処置）・食事療法 （検査）・皮下脂肪厚計測			自己血糖検査　（デモ）
	成人看護学Ⅲ	循環器系（14ｈ）	**急性循環機能障害** （心筋梗塞、急性心不全、大動脈解離） （症状）・胸痛・ショック・欠神 ・チアノーゼ （治療・処置）・スワンガンツカテーテル ・ペーシング・ＰＴＣＡ ・ステント ・ＣＡＢＧ　・薬物療法 （検査）・心電図（12誘導）　＊デモ ・心臓カテーテル検査		**慢性心不全** （症状）・浮腫・うっ血・高血圧 （治療・処置）・薬物療法（降圧剤、利尿剤） ・食事療法（水分制限、減塩） ・安静療法 （検査）・ＣＶＰ測定 ・胸部Ｘ線・心臓超音波検査 **狭心症・不整脈** （症状）・胸痛・動悸 （治療・処置）・薬物療法（狭心症治療薬、抗不整脈薬）	**心筋梗塞** （治療）・心臓リハビリテーション ・薬物療法 （検査）・負荷心電図		心電図（12誘導） （デモ・フィジコで）
		腎・泌尿器系（10ｈ）	**急性腎不全** （症状）・乏尿・尿毒症症状 （治療・処置）・血液透析・薬物療法 ・食事療法 （検査）・Ｃｃｒ **尿路結石症** （症状）・血尿　・疼痛 （治療・処置）・ＥＳＷＬ・ＰＮＬ ・ＴＵＬ ・膀胱･腎盂ろう・尿管ステント （検査）・腹部超音波検査・尿路造影	**膀胱腫瘍** （症状）・血尿 （治療・処置）・尿路変更術・ストマケア （検査）・膀胱鏡	**慢性腎不全** （症状）・尿毒症症状 （治療・処置）・透析療法・腹膜透析 ・腎移植術・薬物療法 ・食事療法 （検査）			

		血造血系（6h）					**血液疾患を持つ患者の看護** （白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、ＤＩＣ） （症状）　・貧血・易感染・出血傾向 （治療・処置）・化学療法・輸血療法・骨髄移植 （検査）　・骨髄検査（骨髄穿刺）	
	成人看護学Ⅳ	呼吸器系（12h）	**急性呼吸機能不全** （気管支喘息、自然気胸、胸部外傷、過換気症候群、肺血栓症） （症状）　・呼吸困難・胸痛・咳嗽・喀痰 ・喀血・呼吸性アルカローシス、アシドーシス （治療・処置）・気管切開・気管内吸引 ・胸腔ドレナージ（胸腔穿刺） ・酸素吸入 （検査）　・血液ガス分析	**肺腫瘍** （治療・処置）・肺切除術	**慢性呼吸機能不全** （COPD、慢性気管支炎、睡眠時無呼吸症候群） （症状）　・咳・痰・呼吸困難 ・呼吸性アシドーシス （治療・処置）・呼吸理学療法（体位ドレナージ、スクィージング） ・人工呼吸機・ＨＯＴ・ＮＩＶＶＰ （検査）　・血液ガス分析		**肺がん末期** （症状）　・血痰・呼吸困難・癌性疼痛・倦怠感 （治療・処置）・薬物療法（ペインコントロール） （検査）　・細胞診	
		運動器系（10h）		**変形性膝関節症** （症状）　・ （治療・処置）・装具・安静療法・手術療法・ＣＰＭ （検査）　・関節鏡 **骨折** （症状）　・フォルクマン拘縮 （治療・処置）・牽引療法・ギプス （検査）		**脊髄損傷** （症状）　・対麻痺　・四肢麻痺 （治療・処置）・リハビリテーション （検査） **四肢切断** （症状）　・幻肢痛 （治療・処置）・リハビリテーション＊松葉杖歩行		
		アレルギー膠原病感染症（8h）	**ＭＲＳＡ** （症状）　・咳・痰・下痢 （治療・処置）・薬物療法（抗生物質） （検査）　・		**膠原病、膠原病類縁疾患** （症状）　・呼吸症状・レイノー現象関節症状 ・皮膚症状・血管炎・筋炎 （治療・処置）・減感作療法・薬物療法（ステロイド、免疫抑制剤） ・免疫吸着法・血漿交換法 （検査）　・免疫学的検査		**エイズ** （症状）　・発熱・発疹・下痢・意識障害 （治療・処置）・薬物療法（抗ＨＩＶ薬） （検査）	
		脳・神経系（12h）	**頭部外傷** （症状）　・意識障害 （治療・処置）・ （検査）　・ **くも膜下出血** （症状）　・頭蓋内圧亢進症・頭痛 （治療・処置）・開頭術・脳室ドレナージ （検査）　・髄液検査（腰椎穿刺）	**脳腫瘍** （症状）　・頭痛 （治療・処置）・開頭術 （検査）　・頭部ＣＴ　・ＭＲＩ		**脳梗塞** （症状）　・麻痺・失語・嚥下困難 （治療・処置）・薬物療法 ・リハビリテーション＊歩行訓練 （検査）　・ＭＲＩ・ＣＴスキャン		
		女性生殖器系（4h）		**乳がん** （治療・処置）・手術療法・ホルモン療法・化学療法 （検査）　・マンモグラフィー・自己診断法 **子宮がん** （症状）　・不正性器出血 （治療・処置）・手術療法（円錐切除術、広汎性子宮全摘術） （検査）　・細胞診・コルポスコープ				
		看護過程（14h）		＊看護過程 手術を受ける患者の看護過程 （周手術期）				
老年看護学	老年看護学Ⅱ	感覚運動呼吸泌尿脳（30h）	**圧迫骨折** （症状）　・疼痛 （治療・処置）・安静療法 （検査） **老人性肺炎** （症状）　・発熱・喀痰 （治療・処置）・薬物療法（抗生物質） （検査）	**大腿骨頸部骨折** （症状）　・疼痛・歩行困難 （治療・処置）・牽引・安静療法・手術療法 （検査） **前立腺肥大症** （症状）　・排尿障害 （治療・処置）・ＴＵＲ-ｐ　・前立腺摘除術 （検査）　・膀胱鏡・尿路水力学的検査 **老人性白内障** （症状）　・視力障害 （治療・処置）・手術療法 （検査）	**パーキンソン病** （症状）　・錐体外路症状 （治療・処置）・薬物療法 （検査） **認知症** （症状） （治療・処置）・薬物療法 （検査）　・長谷川式スケール **疥癬、老人性掻痒症** （症状）　・掻痒感 （治療・処置） （検査）			

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

演習Ⅰ　モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。
　　Ⅱ　モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる。
実習Ⅰ　単独で実施できる。
　　Ⅱ　指導の下で実施できる。
　　Ⅲ　実施が困難な場合は見学する。

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（別表13-2）					本校で演習を実施する科目
項　　目		技術の種類	卒業時の到達度		
			演習	実習	
1.環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅲ「環境」
	2	臥床患者のリネン交換	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅲ「環境」
2．食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある感謝を除く）	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅳ「食べる」
	4	食事指導	Ⅱ	Ⅱ	基礎Ⅳ「食べる」
	5	経管栄養法による流動食の注入	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅳ「食べる」
	6	経鼻胃チューブの挿入	Ⅰ	Ⅲ	基礎Ⅳ「食べる」
3．排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅳ「排泄」
	8	膀胱留置カテーテルの管理	Ⅰ	Ⅲ	基礎Ⅳ「排泄」
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅳ「排泄」
	10	浣腸	Ⅰ	Ⅲ	基礎Ⅳ「排泄」
	11	摘便	Ⅰ	Ⅲ	基礎Ⅳ「排泄」
	12	ストーマ管理	Ⅱ	Ⅲ	成人Ⅱ「消化器」
4．活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	14	歩行・移動介助	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	15	移乗介助	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	16	体位変換・保持	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	17	自動・他動運動の援助	Ⅰ	Ⅱ	成人Ⅰ「経過別看護」
	18	ストレッチャー移送	Ⅰ	Ⅱ	活基礎Ⅲ「活動・休息」
5．清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅴ「清潔」
	20	整容	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅴ「清潔」
	21	点滴・ドレーンなどを留置していない患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅴ「清潔」
	22	入浴・シャワー浴の介助	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅴ「清潔」
	23	陰部の保清	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅴ「清潔」
	24	清拭	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅴ「清潔」
	25	洗髪	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅴ「清潔」
	26	口腔ケア	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅵ「清潔」
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅱ	統合Ⅰ「臨床看護技術Ⅰ」
	28	新生児の沐浴・清拭	Ⅰ	Ⅲ	母性Ⅲ「産褥・新生児期」
6．呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅱ「バイタルサイン」
	30	酸素吸入療法の実施	Ⅰ	Ⅱ	臨看総「主要症状・経過別」
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅰ	Ⅱ	臨看総「主要症状・経過別」
	32	口腔内・鼻腔内吸引	Ⅱ	Ⅲ	臨看総「主要症状・経過別」
	33	気管内吸引	Ⅱ	Ⅲ	臨看総「主要症状・経過別」
	34	体位ドレナージ	Ⅰ	Ⅲ	成人Ⅰ

7．創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅱ	基礎Ⅱ「活動・休息」
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	Ⅱ	Ⅱ	創洗浄、創保護は臨看総「治療別看護」　包帯法は検査・診療
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅱ	Ⅲ	臨看総「治療別看護」
8．与薬の技術	38	経口薬（バッカル錠、内服薬、舌下錠）の投与	Ⅱ	Ⅱ	基礎Ⅵ「与薬」
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅵ「与薬」
	40	座薬の投与	Ⅱ	Ⅱ	基礎Ⅵ「与薬」
	41	皮下注射	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅵ「与薬」
	42	筋肉内注射	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅵ「与薬」
	43	静脈路確保・点滴静脈内中注射	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅵ「与薬」
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ	基礎Ⅵ「与薬」
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅵ「与薬」血液製剤は統合Ⅰ「臨床看護技術Ⅰ」。抗悪性腫瘍薬は臨看総「治療別看護」
	46	輸血の管理	Ⅱ	Ⅲ	臨看総「治療別看護」
9．救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ	統合Ⅱ「救急看護」
	48	一時救命処置	Ⅰ	Ⅰ	統合Ⅱ「救急看護」
	49	止血法の実施	Ⅰ	Ⅲ	統合Ⅱ「救急看護」
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅱ「バイタルサイン」
	51	身体計測	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅵ「検査・診療」
	52	フィジカルアセスメント	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅶ「フィジカルアセスメント」
	53	検体（尿、血液等）の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅵ「検査・診療」
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ	成人Ⅱ「内分泌」
	55	静脈採血	Ⅱ	Ⅲ	基礎Ⅳ「検査・診療」
	56	検査の介助	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅳ「検査・診療」
11. 感染予防技術	57	スタンダードプリコーション	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅰ「感染予防」
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択、着脱	Ⅰ	Ⅰ	基礎Ⅰ「感染予防」
	59	使用した器具の感染防止の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅰ「感染予防」　基礎Ⅵ「与薬」
	60	感染性廃棄物の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅰ「感染予防」　基礎Ⅵ「与薬」
	61	無菌操作	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅰ「感染予防」
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅵ「与薬」
11. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時のすみやかな報告	Ⅰ	Ⅰ	統合Ⅰ「臨床看護技術Ⅰ」 統合Ⅲ「医療安全」
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ	すべての演習　基礎Ⅵ「与薬」
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	Ⅰ	Ⅱ	すべての演習 主に基礎Ⅲ「活動・休息」
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ	臨看総「治療別看護」
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅱ	Ⅲ	臨看総「治療別看護」
	68	医療機器（輸血ポンプ、シリンジポンプ、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	Ⅱ	Ⅲ	輸液ポンプ、シリンジポンプは臨看総「治療別看護」 酸素ボンベは臨看総「主要症状・経過別」
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	70	安楽の促進・苦痛緩和のためのケア	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅲ「活動・休息」
	71	精神的安寧を保つためのケア	Ⅰ	Ⅱ	基礎Ⅲ「活動・休息」